

Nara Institute of Science and Technology

受験生のための大学案内

CAMPUS GUIDE FOR PROSPECTIVE STUDENTS

2020-2021

国立大学法人

奈良先端科学技術大学院大学

限りなき未知への探究

～最先端は奈良先端大から～

インターネット、マルチメディア、クローン、ゲノム、ナノテクノロジー…

これらは、例えば20年前には一般の人が耳にすることもなかった用語。

—ここ10数年における科学技術の進展には目を見張るものがあります。

本学は、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学を基盤とした

“最先端”分野を学べる大学院大学。

最新のテクノロジーに対応した設備と実績豊かな教授陣を整えることにより、

輝かしい成果を挙げる一方、産業界にも優秀な研究者・技術者を輩出し続けていま

す。また、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学の3つの分野を相互に関連

する学問としてとらえた、総合的・体系的な教育にも力を入れています。

これからも「先端」の名にふさわしく、科学技術の発展に貢献しながら、次世代に活躍できる人材を育成していきます。

CONTENTS

学長メッセージ	2
目的／育成する人材像／アドミッション・ポリシー	3
先端科学技術研究科の特色	4
7つの教育プログラム	5
博士前期課程の教育課程	7
博士後期課程の教育課程	8

研究室について

研究室紹介	9
先輩からのメッセージ	12

大学情報

学習環境	15
経済支援	17
生活支援	19
修了後の進路及び就職状況	21
企業人事担当者からのメッセージ	23
修了生からのメッセージ	24
国際交流	25
資料その他	27
学生募集イベント	28
入学者選抜試験	29
キャンパスマップ	31
キャンパス周辺エリアMAP	33
アクセス	35



受験生の皆さんへ

「あなたの未来を創る挑戦のために」

学長 横矢 直和

奈良先端科学技術大学院大学は、学部を持たない新構想の大学院大学として1991年に誕生し、以来、「実験大学」として大学院改革のトップランナーであり続けています。創設以来、情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の3分野とこれらの融合領域において世界レベルの研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育を実施してきました。これまでに3研究科において博士前期課程（修士）修了者約8,000名、博士後期課程（博士）修了者約1,600名を社会に送り出し、それぞれが社会の様々な分野で研究者・技術者等として活躍しています。また、本学で育った多数の若手研究者を全国の主要な大学に教授・准教授等として送り出し、先端科学技術分野での教育研究に貢献しているのも本学の大きな特徴です。

このような教育研究活動の実績をもとに、2013年度に、世界水準の優れた研究活動を行う大学群の増強を目的とした文部科学省「研究大学強化促進事業」の支援対象19大学の一つに選定されました。また、2014年度には、大学の国際競争力向上と多様な場でグローバルに活躍できる人材の育成を目指す文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の支援対象37大学の一つに選ばれました。現在、この2つの事業を両輪として教育研究環境の改善・強化に取り組んでいるところです。

受験生の皆さんは肌で感じておられると思いますが、科学技術は大きな変革の時代を迎えています。科学技術の急激な変化は人間と社会に大きな影響を与えます。人類の進化がシンギュラリティ（技術的特異点）に到達するのではないかという予測もあります。シンギュラリティが近づくと、今存在している職業の多くがなくなり、新しい職業が現れるという議論も盛んです。このような時代における先端科学技術とは何

でしょうか。奈良先端大は、科学技術が変化の中で常に最先端の研究を推進し、それを背景に最先端科学技術の将来を担う人材を育成することをミッションとしていますが、情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の各分野で独立に教育と研究を行う体制では将来にわたって先端科学技術を担い続けるのは難しいと思います。このような問題意識のもとに、本学は、変化していく先端科学技術に柔軟に対応できる教育研究体制を構築するために、2018年4月に従来の3研究科を統合し、融合領域教育プログラムの強化に重点をおいた組織改革を行いました。

新しい先端科学技術研究科からなる1研究科体制では、従来の3研究科に対応した3つの教育プログラム「情報理工学プログラム」「バイオサイエンスプログラム」「物質理工学プログラム」に加えて、融合領域の教育プログラムとして「情報生命科学プログラム」「バイオナノ理工学プログラム」「知能社会創成科学プログラム」「データサイエンスプログラム」の4つを設定しています。融合領域のプログラムには複数の領域の教員が参加し、共同して組織的・体系的に教育研究指導を行います。これによって、入学後の皆さんの分野の選択肢が増え、新しい分野の開拓に挑戦する機会を提供できると考えています。この組織改革は、奈良先端大にとっても創設以来、最大の挑戦になります。

奈良先端大は、将来の科学技術の発展を支え、グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、本学での研究活動を通して学生が世界に飛躍できる研究者・技術者へと成長するための最高の教育研究環境を準備しています。受験生の皆さん、あなた自身の未来を創るために奈良先端大で挑戦しませんか。教職員一同、挑戦心を持ったあなたを待っています。



奈良先端大はあなたの未来を拓きます！

目 的

奈良先端科学技術大学院大学(奈良先端大)は、学部を置かない大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を育成し、科学技術の進歩と社会の発展に寄与します。

育成する人材像

博士前期課程では、社会・経済を支える情報科学、バイオサイエンス、あるいは、物質創成科学の高度な専門性と、それに隣接する融合分野を理解できる広範な素養を持ち、社会全体を見渡す俯瞰的な視点から物事を考え、社会において先端科学技術の活用やイノベーションを担う人材を育成します。

博士後期課程では、情報科学、バイオサイエンス、あるいは、物質創成科学及び関連する融合分野に係る高度な先端知識と幅広い視野に加え、国際性や主体性・自立性を備え、高い志を持って科学技術研究に挑戦し、産官学にわたり国際社会で指導的な役割を果たす研究者・高度専門技術者を育成します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

博士前期課程

◆求める学生像

国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求める。特に、物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えが的確に表現できる力を持った人、旺盛な好奇心と何にでも挑戦する実行力を持った人を積極的に受け入れます。

◆入学者選抜の基本方針

上記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜方法を実施します。

博士後期課程

◆求める学生像

国内外を問わず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求める。特に、これまでに修得してきた深く広い専門知識を、人類社会の諸問題の解決に役立たせることに強い関心を持ち、幅広い先端科学技術分野での活躍を志している人を積極的に受け入れます。

◆入学者選抜の基本方針

上記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜方法を実施します。

先端科学技術研究科の特色

2018年4月、これまでの情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学の3つの研究科を統合し、先端科学技術研究科が誕生しました。

- ・これまでの研究科間の垣根をなくすことで、関連する研究分野の教員が結集して最先端科学術教育を行える柔軟な教育体制を構築します。
- ・学生の興味、意欲にきめ細やかに対応するため、履修科目選択に自由度を持たせた教育を実現します。
- ・高度な専門性を修得させるための7つの「教育プログラム」を設定します。
- ・他の分野を学ぶのに必要な基礎・専門知識を学べる仕組みを導入し、大学・高専専攻科で身に着けた専門性をベースとして、他の専門分野への挑戦を可能とします。
- ・民間企業の研究者・技術者を講師に招き、社会実装までを想定して社会ニーズに基づく問題の解決を行うPBL (Project Based Learning) 形式の演習を実施します。

○修業年限の弾力化

優れた研究業績を修めた者は、博士前期課程は1年以上、博士後期課程は博士前期課程と併せて3年以上の在籍で修了できる短期修了制度があります。(2019年3月現在の実績：博士前期課程約180名、博士後期課程約300名)。

○優秀な学生への経済支援

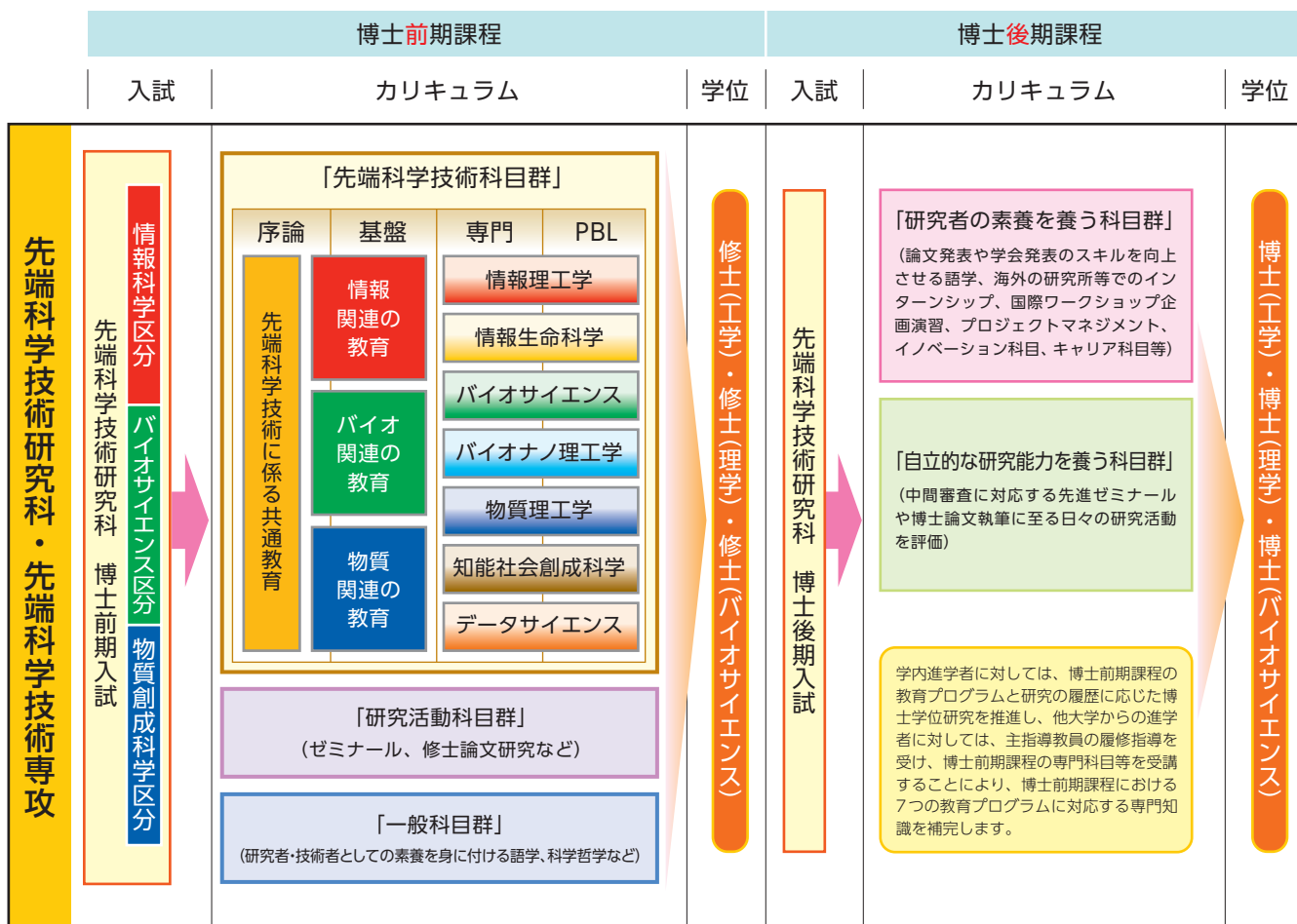
大学院生が生活に不安なく学習や研究に没頭できるように、成績優秀な学生は、TA、RA 雇用を通じた経済支援を行っています。
TA (ティーチングアシスタント) 制度：博士前期課程2年次以上の学生を対象に、講義資料の収集・整理・作成補助、レポートの採点補助など大学院教育の一部作業に参加させて経済的自立を支援。
RA (リサーチアシスタント) 制度：優秀な博士後期課程学生を研究プロジェクトの研究補助者として雇用。

○行き届いた学生への生活・修学・就職支援

キャンパス内には、学生宿舎を用意しており、研究活動に十分な時間を確保するための一助となっています。また、希望者のほとんどが、日本学生支援機構の奨学金を受給しています。外国で行われる国際会議に参加するための旅費の援助制度も整っています。学術交流協定校は全世界に広がっており、留学機会にも恵まれています。
なおキャリア支援室を通じた就職情報の提供や、学生個人レベルでのきめ細かなアドバイスを行っています。

○卓越した研究業績とそれを支えるオープンで活気に満ちた多彩な教授陣による優れた研究環境

国際的に活躍している教授陣、各分野で嘱望されている若手教員を擁し、卓越した業績をあげています。科学研究費補助金をはじめ競争的外部資金の導入は、教員1人当たりでは国内でトップクラスです。学生に対する教員数の比率が高いため、きめ細かなマンツーマン教育を実現しています。最新の研究設備を完備し、建物も新しく広々としたスペースで、心行くまで研究や勉強に打ち込める環境が整っています。

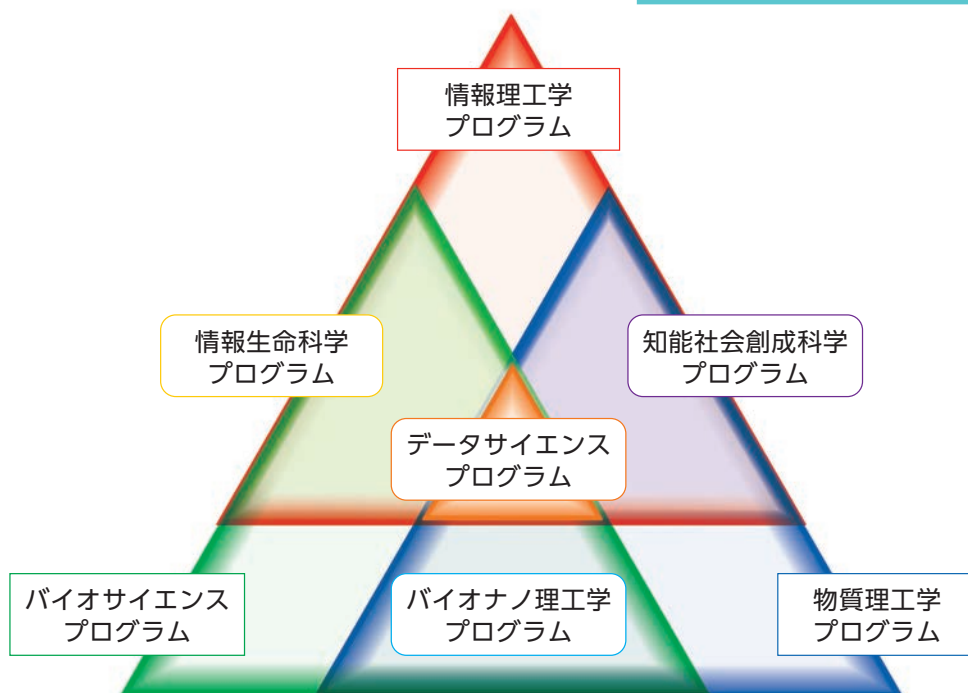


7つの教育プログラム

博士前期課程に入学された方に、次の7つの教育プログラムを用意しています。

融合した教育プログラムの概念図

先端科学技術研究科



7つの教育プログラムの概要と人材育成目標

情報理工学プログラム

授与される学位 修士・博士（工学／理学）



情報科学を主体とするプログラムです。コンピュータ本体及び情報ネットワークに関する技術、コンピュータと人間のインタラクション及びメディアに関する技術、ロボット等コンピュータを駆使する各種システムに関する技術など、広い視野と高度な専門性を備え、様々な分野で情報科学技術の高度化やその多面的な活用により、高度情報化社会を支える人材を育成します。

研究
選択
できる
室

（情報科学領域）
コンピューティング・アーキテクチャ、ディペンダブルシステム学、ユビキタスコンピューティングシステム、ソフトウェア工学、ソフトウェア設計学、サイバーレジリエンス構成学、情報セキュリティ工学、情報基盤システム学、自然言語処理学、知能コミュニケーション、ネットワークシステム学、インタラクティブメディア設計学、光メディアインタフェース、サイバネティクス・リアリティ工学、ソーシャル・コンピューティング、ロボティクス、知能システム制御、大規模システム管理、数理情報学、生体医用画像、計算システムズ生物学、ロボットラーニング

情報生命科学プログラム

授与される学位 修士・博士（工学／理学／バイオサイエンス）



情報科学とバイオサイエンスの融合プログラムです。遺伝子やタンパク質、代謝などに関する膨大な生体情報や医用画像データなど、生命現象にかかわる大規模なデータの取得ができる人材及びその解釈ができる人材あるいはこれらの技術開発のできる人材を育成します。

研究
選択
できる
室

（情報科学領域）
コンピューティング・アーキテクチャ、ユビキタスコンピューティングシステム、ネットワークシステム学、光メディアインタフェース、サイバネティクス・リアリティ工学、ソーシャル・コンピューティング、ロボティクス、知能システム制御、数理情報学、生体医用画像、計算システムズ生物学
（バイオサイエンス領域）
植物細胞機能、植物発生シグナル、植物代謝制御、植物成長制御、植物生理学、植物免疫学、植物二次代謝、植物共生学、分子情報薬理学、機能ゲノム医学、腫瘍細胞生物学、分子免疫制御、分子医学細胞生物学、RNA分子医科学、幹細胞工学、発生医科学、システム微生物学、細胞シグナル、構造生命科学、遺伝子発現制御、神経システム生物学、計算生物学

バイオサイエンスプログラム

授与される学位 修士・博士（バイオサイエンス）



バイオサイエンスを主体とするプログラムです。動植物・微生物について、分子・細胞・個体レベルで、生命現象の基本原理から生物の多様性まで、最先端の幅広い知識と高度な専門性を備え、国内外の民間・公的機関において、環境・エネルギー・食料・資源や健康・長寿等の諸問題解決に資することにより、人類の発展と地球環境の保全に貢献する人材を育成します。

研究
選
取
で
き
る
室

（バイオサイエンス領域）

植物細胞機能、植物発生シグナル、植物代謝制御、植物成長制御、花発生分子遺伝学、植物生理学、植物免疫学、植物二次代謝、植物共生学、分子情報薬理学、機能ゲノム医学、腫瘍細胞生物学、分子免疫制御、分子医学細胞生物学、RNA分子医科学、幹細胞工学、発生医科学、器官発生工学、システム微生物学、細胞シグナル、ストレス微生物科学、環境微生物学、構造生命科学、遺伝子発現制御、神経システム生物学、計算生物学

バイオナノ理工学プログラム

授与される学位 修士・博士（工学／理学／バイオサイエンス）



バイオサイエンスと物質創成科学の融合プログラムです。生命活動の分子の基盤を理解し、医薬品や医用工学材料の開発、生命機能を模した新規高分子の開発、再生医療を支える新規細胞工学の開拓など、人類の未来を支える新たな機能材料を開発する能力を育成し、また、物質科学の理解に基づく、バイオサイエンス研究の新潮流の開拓に携わることのできる人材を育成します。

研究
選
取
で
き
る
室

（バイオサイエンス領域）

植物細胞機能、植物発生シグナル、植物代謝制御、植物成長制御、花発生分子遺伝学、植物生理学、植物共生学、分子情報薬理学、機能ゲノム医学、腫瘍細胞生物学、分子免疫制御、分子医学細胞生物学、RNA分子医科学、発生医科学、器官発生工学、細胞シグナル、ストレス微生物科学、環境微生物学、構造生命科学、遺伝子発現制御、神経システム生物学

（物質創成科学領域）

生体プロセス工学、光機能素子科学、情報機能素子科学、感覚機能素子科学、反応制御科学、光情報分子科学、有機光分子科学、機能高分子科学、先進機能材料、超分子集合体科学、分子複合系科学、バイオミメティック分子科学、ナノ高分子材料

物質理工学プログラム

授与される学位 修士・博士（工学／理学）



物質創成科学を主体とするプログラムです。固体物性学、デバイス工学、分子化学、高分子材料、バイオナノ理工学などを横断する教育プログラムにより、物質科学に関する基盤知識と専門性を活かすための高度な知識を持ち、人類の豊かな生活の維持と社会の発展を支える次代の科学技術の担い手となる人材を育成します。

研究
選
取
で
き
る
室

（物質創成科学領域）

量子物性科学、生体プロセス工学、凝縮系物性物理学、ナノ構造磁気科学、光機能素子科学、情報機能素子科学、センシングデバイス、有機固体素子科学、メソスコピック物質科学、感覚機能素子科学、反応制御科学、光情報分子科学、有機光分子科学、機能高分子科学、環境適応物質学、先進機能材料、超分子集合体科学、分子複合系科学、バイオミメティック分子科学、ナノ高分子材料、データ駆動型化学

知能社会創成科学プログラム

授与される学位 修士・博士（工学／理学）



物質創成科学と情報科学の融合プログラムです。機能性物質の設計、新機能を実装したデバイスや現実世界をセンシング、分析するデバイスの設計、分析結果をさまざまに生かすシステム構築、機械やロボットの制御システムまでを統合的に捕らえる広い視野を持ちつつ、その中の特定分野の深い専門知識を身につけたIoT時代の社会システムを支える人材を育成します。

研究
選
取
で
き
る
室

（情報科学領域）

コンピューティング・アーキテクチャ、ディペンダブルシステム学、ユビキタスコンピューティングシステム、ソフトウェア工学、ソフトウェア設計学、サイバーレジリエンス構成学、情報セキュリティ工学、情報基盤システム学、ネットワークシステム学、インタラクティブメディア設計学、光メディアインタフェース、サイバネティクス・リアリティ工学、ロボティクス、知能システム制御、大規模システム管理、数理情報学、計算システムズ生物学、ロボットラーニング

（物質創成科学領域）

量子物性科学、光機能素子科学、情報機能素子科学、有機固体素子科学、メソスコピック物質科学、感覚機能素子科学、光情報分子科学、環境適応物質学、先進機能材料

データサイエンスプログラム

授与される学位 修士・博士（工学／理学／バイオサイエンス）



情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の融合プログラムです。情報科学、バイオサイエンス、物質科学に関わるデータ駆動型科学、AI 駆動型科学の最先端の幅広い知識と高度な専門性を備え、蓄積された膨大なデータの処理、可視化、分析を通じてその奥に隠れた「真理」や「価値」を引き出して、次代の科学・技術の進歩や社会の発展に貢献できる人材を育成します。

研究
選
取
で
き
る
室

（情報科学領域）

コンピューティング・アーキテクチャ、サイバーレジリエンス構成学、情報基盤システム学、自然言語処理学、知能コミュニケーション、インタラクティブメディア設計学、サイバネティクス・リアリティ工学、ソーシャル・コンピューティング、知能システム制御、数理情報学、生体医用画像、計算システムズ生物学、ロボットラーニング

（バイオサイエンス領域）

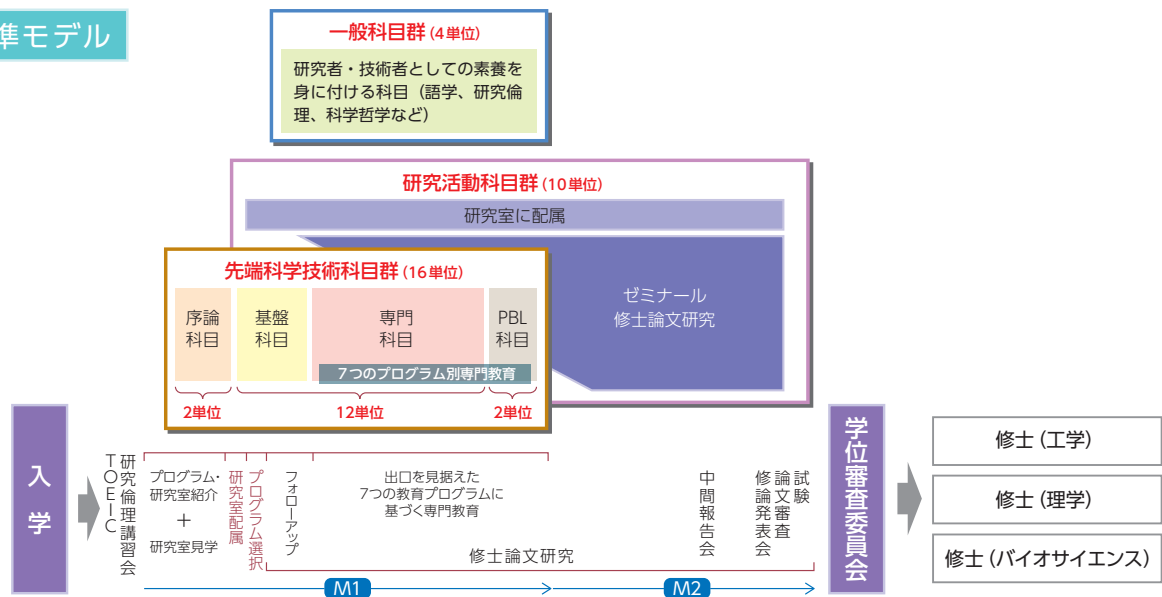
植物細胞機能、植物発生シグナル、植物代謝制御、植物成長制御、花発生分子遺伝学、植物生理学、植物免疫学、植物二次代謝、植物共生学、分子情報薬理学、機能ゲノム医学、腫瘍細胞生物学、分子免疫制御、分子医学細胞生物学、RNA分子医科学、発生医科学、システム微生物学、細胞シグナル、ストレス微生物科学、構造生命科学、遺伝子発現制御、神経システム生物学、計算生物学

（物質創成科学領域）

生体プロセス工学、凝縮系物性物理学、光機能素子科学、情報機能素子科学、反応制御科学、光情報分子科学、有機光分子科学、分子複合系科学、データ駆動型化学

博士前期課程の教育課程

標準モデル



専門の異なる学生が様々な分野の最新科学技術や社会ニーズを理解し議論することが、1 研究科に統合した最大の目的です。他の先端科学技術分野を俯瞰できる広い視野や柔軟な発想、統合性、創造性を持つ人材を育成していきます。

Check Point!

「5年一貫コース」について

博士前期・後期課程の標準修業年限（5年）内で一貫した博士研究指導（5年一貫コース）を行うことで、専門領域に関する深い学識、豊かな創造力及び国際的視野を有する人材の育成を行います。なお、5年一貫コース学生には、研究指導体制の拡充、博士後期課程での長期の海外留学支援、経済支援などを行い、博士課程の在籍学生として研究に専念できる指導体制を整えます。

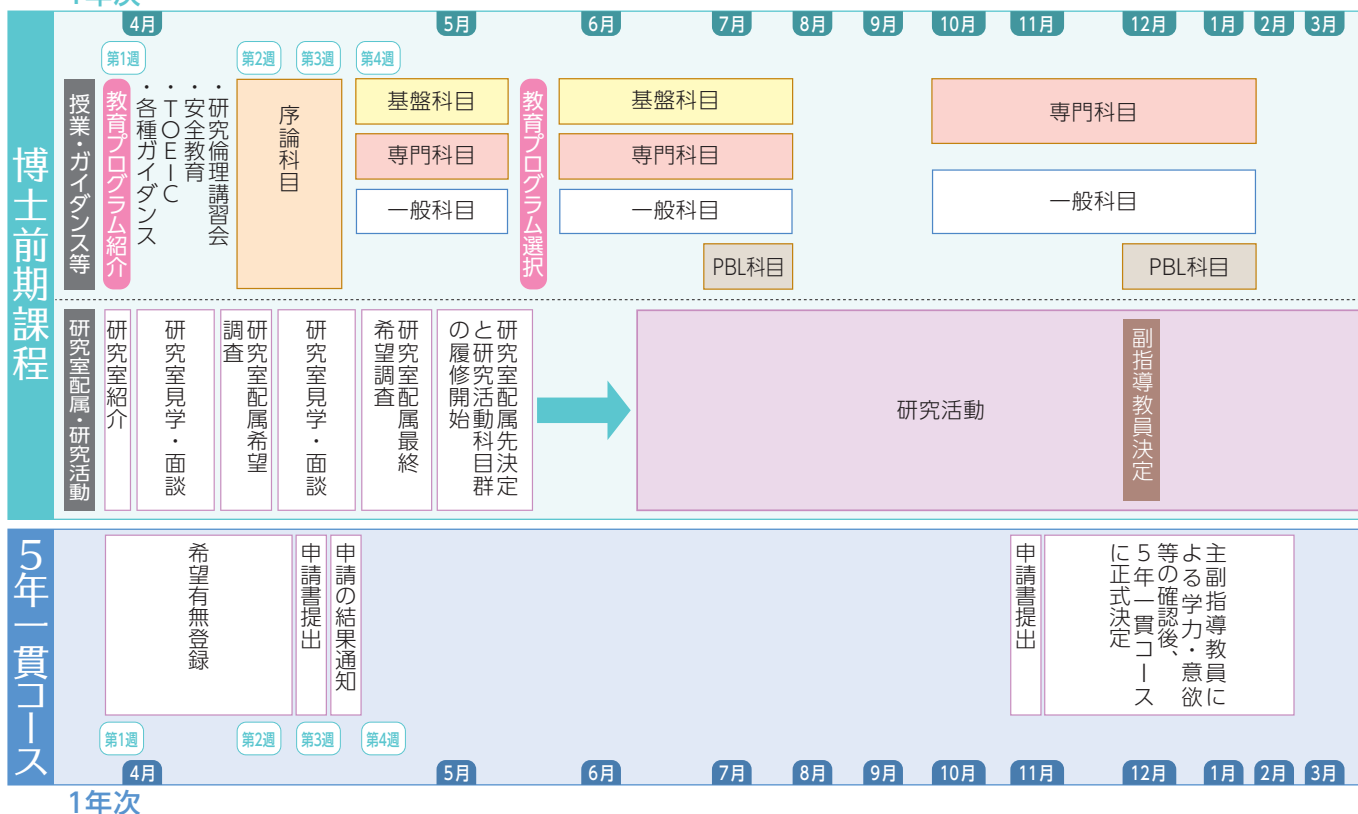
Check Point!

「PBL (Project Based Learning)」について

“先端科学技術科目群”の履修の集大成として、他分野や他研究室の学生と協働して先端科学技術の問題の発見と、それを解決する能力を育成するためPBL (Project Based Learning) 形式で行う「PBL 科目」を必修科目としています。「PBL 科目」を通じて、自身の専門分野の裾野を広げるのみならず、専門の異なる研究者・技術者が協力して融合分野を開拓する際に必要となる異分野間コミュニケーション能力を育成していきます。7つの教育プログラムのいずれにおいても、異なる研究室に所属する学生のグループを作ることにより、多面的に物事を捉える柔軟な視点を養います。

1年次

年間スケジュール

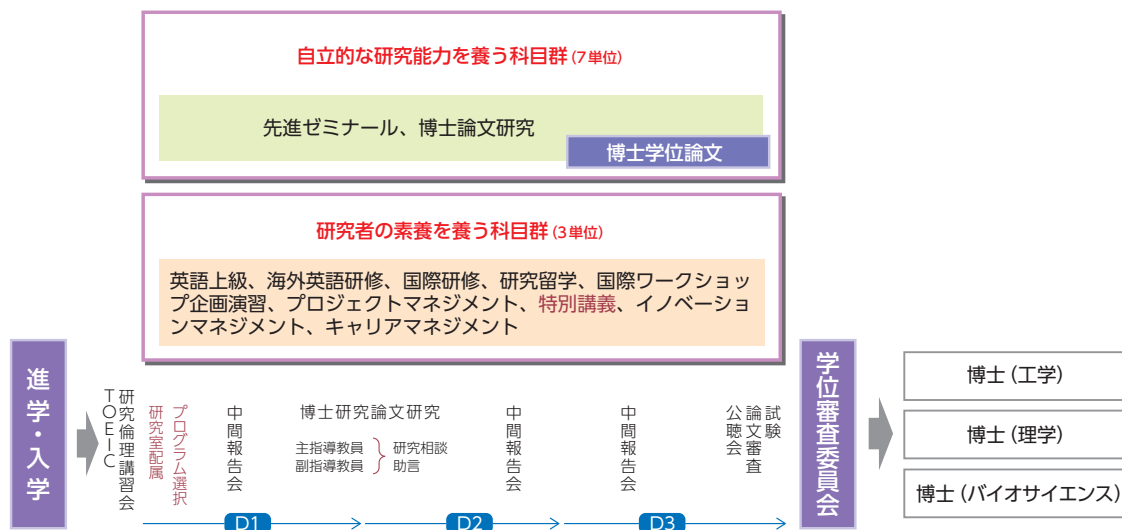


1年次

*標準的なスケジュールのため、若干前後する場合があります。

博士後期課程の教育課程

標準モデル



本学からの進学者には、博士前期課程の教育プログラムにおける教育研究をさらに発展させた学位研究を推進していきます。また、他大学からの進学者には、博士前期課程の7つの教育プログラムに対応する専門知識を教育し、博士前期課程における教育・研究の履歴に応じた学位研究を推進していきます。

Check Point!

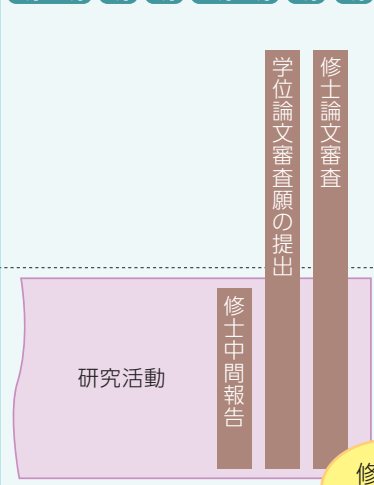
「研究者の素養を養う科目群」について

国際性、国際コミュニケーション能力を養う科目により、英語論文の作成法と高度な国際コミュニケーションの方法を学び、海外の研究室等でのインターンシップや国際的な会議に参加し、発表や討論を行います。また、学内外、国内外での教育研究の場を通じて研鑽を積むことを目指します。



2年次

4月～7月 8月 9月 10月～1月 2月 3月



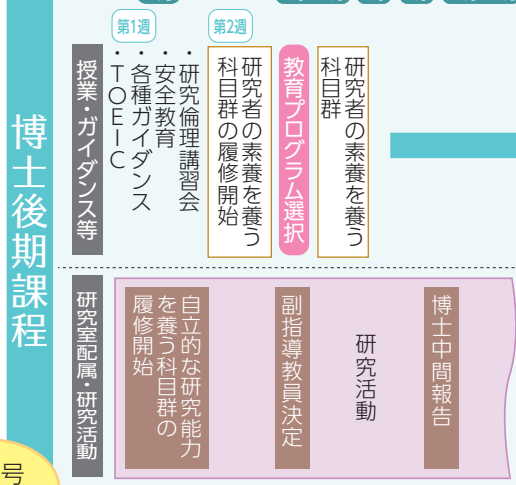
TARAとして
経済的支援を受
けつつ、講義補
や研究プロジェ
クト等に参画

4月～7月 8月 9月 10月～1月 2月 3月

2年次

1年次

4月 5月～7月 8月 9月 10月～3月



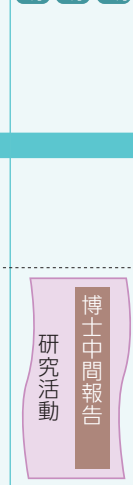
3年次以降の
博士後期課程の
ものと同様

4月 5月～7月 8月 9月 10月～3月

3年次

2年次

4月 9月 10月



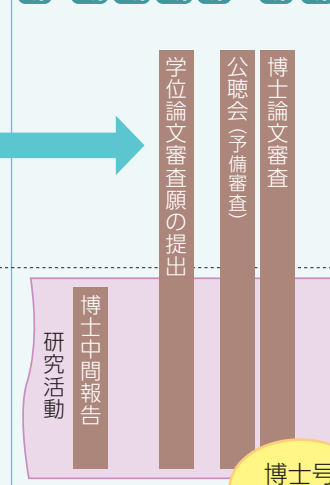
3年次以降の
博士後期課程の
ものと同様

4月 9月 10月

4年次

3年次

4月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



3年次以降の
博士後期課程の
ものと同様

4月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

5年次

研究室紹介

アルゴリズムからハードウェアまで、理論的・実践的にディペンダビリティを考える

ディペンダブルシステム学研究室

井上 美智子教授

1. 研究室で行われている研究分野の概要

Society5.0(超スマート社会)では、フィジカル空間とサイバー空間が高度に融合し、情報技術が現実社会にますます浸透していくと考えられています。ここで大事となる概念がディペンダビリティです。ディペンダビリティとは「頼りがいのあること」、高性能・高効率だけでなく、故障耐性、高信頼、セキュリティなどユーザが安心して利用できるシステムのための概念です。ディペンダブルシステム学研究室では、個体(ハードウェア)レベル、集合体(分散システム)レベルと、異なるレベルのディペンダビリティを考え、システムのディペンダビリティを統合的に高める研究に取り組んでいます。

2. 研究室が目指しているもの、目標

新しいシステムやデバイスを考えるときは、性能だけでなく、最初からディペンダビリティを考えることが重要です。移動ロボット群、ブロックチェーンなど分散型協調問題解決、次世代メモリデバイス、脳型コンピュータ、パワー半導体、太陽光発電などのハードウェアを安心して利用するための研究を行っています。

3. 受験生に向けて一言

ディペンダブルシステム学研究室では、様々なターゲットに対するディペンダビリティを追求していますが、研究スタイルも様々です。アルゴリズムの正当性や性能を理論的に証明する、シミュレーションによる計算機実験で評価する、実測したデータを機械学習で解析するなど、いろんなスタイルで研究を楽しめる研究室です。自分にあった研究テーマや研究スタイルを見つけて、一緒に研究してみませんか？



ロボットを高度に知能化する機械学習・人工知能を極める

ロボットラーニング研究室

松原 崇充
特任准教授

1. 研究室で行われている研究分野の概要

少子高齢社会における労働人口の減少に伴い、ロボットによる労働代替に期待が寄せられています。ロボットラーニング研究室では、人中心環境で活躍するロボットに必要な知覚・判断・行動機能の実現に向けて、ロボットラーニング(ロボットのための機械学習・人工知能)技術と、その実世界応用に関する研究に取り組んでいます。特に、ロボットが自身で収集する限られた経験(データ)をもとに、新しい技能を学習・汎化し、未知環境にも対応できる知能の実現に注力しています。

2. 研究室が目指しているもの、目標

ベイズ理論や深層学習を用いたロボット向けの強化学習・模倣学習のアルゴリズム開発を中心に、最先端ロボットを用いた産業・福祉・介護用ロボット技術の開発や、産学連携を通じたロボットラーニング技術の社会実装にも挑戦しています。物理シミュレーションや大学の実験室だけでなく、実環境でも頑健に機能する技術の創出が常に目標です。

3. 受験生に向けて一言

ロボットラーニングは新しい研究分野なので、学部・高専時代に触れたことがないかもしれませんが、自分の得意分野やスキル・経験(ロボット・プログラミングコンテスト、電子・機械工作など)を活かして、独自のアプローチを開拓できる可能性もあります。研究室には留学生や海外インターン生も多く、学生部屋はいつも活気に溢れています。人だけでなくロボットも学が当研究室で、是非自分だけのロボットラーニング研究に挑戦してください。



遺伝子発現制御を理解し、その異常が病気につながる謎を解く

RNA分子医科学研究室

岡村 勝友教授

1. 研究室で行われている研究分野の概要と目標

人間などの多細胞生物は多様な性質をもつ細胞により成り立っています。細胞の性質は、遺伝情報としてDNAに書き込まれています。

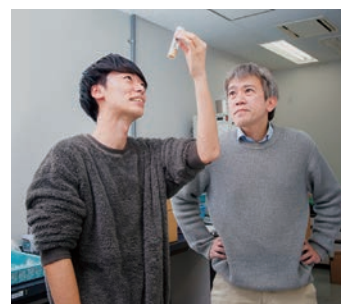
では、一つの個体を構成する細胞はすべて同一の遺伝情報を持つにもかかわらず、なぜ多様な性質を示すことができるのでしょうか？遺伝情報を構成する数万の遺伝子のうちのどの遺伝子を使うか(どの遺伝子が発現するか)によって細胞の性質が変わるために、このような多様な細胞を作ることができるのです。

現在の遺伝子解析技術で人間のDNA配列のすべて調べることができるようになりましたが、その配列が細胞や個体の状態をどう制御しているかは理解することができません。私たちは、生物の複雑な遺伝子発現機構がどのようにして働いているかを理解することを目標にしています。

現在はmicroRNAなどのRNA分子を介した遺伝子制御機構を研究しており、将来はそのような機構の破綻がどう疾患に繋がるかを分子レベルで理解できると考えています。研究手法としては、次世代シーケンスによる遺伝子発現データの数学的解析や、モデル動物を用いた遺伝学的解析、電気泳動などの生化学解析を組み合わせています。

2. 受験生に向けて一言

研究の過程では、問題点を洗い出し、解決法を見出して計画を立て、その計画に沿って問題を実際に解決するという実生活にも共通したプロセスが存在します。これらを実行し、その成果を周囲の人たちや社会に伝える能力(プレゼンテーション能力)を持つ人材は学术界や産業界といった分野を問わず貴重な人材となるでしょう。本研究室では、このような普遍的な能力を身につけることを意識して大学院生活を送ってもらいたいと思っています。



微生物に学ぶ細胞の環境ストレス耐性メカニズムとバイオテクノロジーへの応用

ストレス微生物科学研究室

高木 博史教授

1. 研究室で行われている研究分野の概要

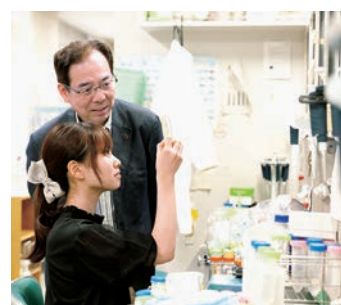
微生物は常に環境からのストレス(生体の恒常性を崩す因子)に曝されています。微生物は様々なストレスに応答し、遺伝子発現、タンパク質機能・酵素活性、代謝経路などを制御することで種々の機能を発揮しながら、地球の環境変化に適応してきました。このように、ストレスに対する微生物の様々な機能・機構を理解することは、微生物の多様性だけでなく、高等生物の生命現象に対し、新しい作業仮説、解決のヒントを導き出す重要な研究です。一方で、微生物による発酵生産過程は細胞にとってストレス環境であり、温度、浸透圧、水分、pH、化学物質など多様なストレスに曝されています。過酷なストレスにより、微生物の生育は阻害され、細胞死に至るため、発酵生産力にも限界があります。従って、発酵食品やバイオ燃料などの生産性向上には、微生物にストレス耐性を付与する技術が必要です。

2. 研究室が目指しているもの、目標

私たちは、酵母、細菌などの微生物が有する様々な細胞機能について、環境ストレス(酸化・還元、高温、冷凍、乾燥、浸透圧、エタノールなど)への新しい耐性機構を中心に、分子・代謝・細胞レベルで解析を行ない、微生物の複雑かつ巧妙な機能への理解を深めます。また、基礎研究で得られた成果を有用な微生物育種、物質生産などの技術開発に応用し、食糧、エネルギー、環境、生命に関連したバイオテクノロジーへの貢献を目指しています。

3. 受験生に向けて一言

私たちの体内をはじめ身近な所や地球上のあらゆる場所で大活躍している微生物を用いて、最先端・最新の研究、社会・地球に役立つ研究にチャレンジしてみませんか？少しでも微生物に興味があるなら、私たちの研究室で、人間力(マナー・元気・熱意)を身につけながら、「労を惜みず、時間を惜しむ」「今が故郷」の気持ちで研究を楽しみましょう!!



分子の世界の社会学：分子集団が織りなす機能性の源を紐解き利用する

分子複合系科学研究室

上久保 裕生教授

1. 研究室で行われている研究分野の概要

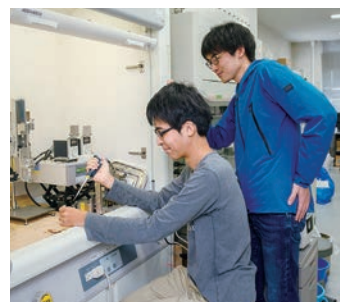
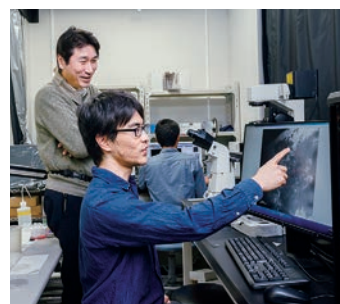
人間、一人一人の力は小さくても、社会集団を形成することでより大きな力を発揮することができます。これと同じことが分子の世界でも起きています。分子複合系科学研究室では、分子集団の協奏現象が生み出す機能性の理解を進めると同時に、新たな創薬のターゲットの発見や材料科学への応用を目指しています。

2. 研究室が目指しているもの、目標

生命システムの中では、タンパク質と呼ばれる分子達がそれぞれ個性を持ち、機能に対し何らかの役割を担っています。しかしながら、個々のタンパク質分子は生物に見られる高度な機能とかけ離れたさやかな機能を持っているにすぎません。生物が示す多様な機能性は、これらタンパク質が緩やかに結びついた集団が、恒常的かつ自律的な集合離散を繰り返すことによって実現されています。分子集団が示す機能性の源を紐解くためには、分子集団のありのままの姿を解析する必要があり、そのために、私たちは新しい観測手法の開発を進めています。分子集団が示す物性の理解は創薬への展開は言うまでもなく、一見関係がないと思われる材料科学への応用も期待できます。蚕やクモの糸(シルク)等は構造タンパク質と呼ばれる種類のタンパク質が複雑に絡み合ってきた分子複合系材料であり、人工的に作られた材料では再現できない様々な特性を示します。私たちは、分子複合系を対象とした研究を通じ、タンパク質を素材とした新しい材料の開発と実用化、ひいてはタンパク質材料科学とも呼べる新たな学術分野の創成を目指しています。

3. 受験生に向けて一言

分子複合系を対象とした研究は、様々な分野からなる学際領域研究です。所属学生の出身分野も様々です。分からない事象、未知なるものに興味をもてる人、探究心を身につけたいと考えている人であれば、研究を始めてから必要な知識は身につけることができます。



人工・生体の機械がもつしくみに学ぶ、ナノサイズのものづくり

バイオミメティック分子研究室

ラッペン ゲナエル教授

1. 研究室で行われている研究分野の概要

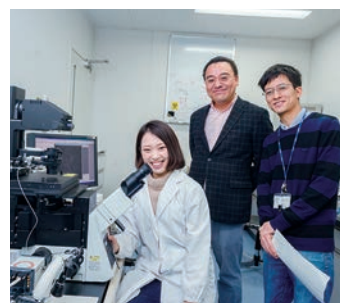
我々の身の回りは、大小様々な機械にあふれており、それらが互いに連携することで毎日の生活を豊かなものにしています。生き物の中でも同じように無数の分子が機械として働くことで生命機能を実現しています。当研究室では、生体および人工の機械がもつ構造や動きをヒントに、それらを分子によって模倣することで、ナノサイズで動く「分子マシン」の開発を行っています。例えば、ナノメートルスケールの自動車であるナノカーや、互いにかみ合いながら回転する分子ギアを開発しました。また、生体から着想を得た分子マシンとして、細菌の細胞膜に穴を開けることで活性を示す新しい抗菌性ポリマーの研究も行っています。

2. 研究室が目指しているもの、目標

当研究室のアプローチは、身の回りに存在する幅広い物事に対して興味を持ち、その構造や機能の本質を観察・理解することに始まります。観察を通じて気づいたエッセンスをもとに、有機合成や高分子合成によって分子マシンを実際に組み上げていきます。お手本となる元の機械が持つ構造や機能をはるかに凌駕する、世界をあっと言わせるような分子マシンの開発を目標にしています。

3. 受験生に向けて一言

日々の研究を進めていくなかで、分野横断的な知識や技能を幅広く習得してもらえるよう、学生のサポートを行っています。これまでも、様々な異なる分野から進学してきた先輩たちが、より広い視野と技術を武器に社会の第一線で活躍しています。皆さんがこれまでに養ってきた幅広いバックグラウンドをナノサイズのものづくりに生かして一緒に研究しませんか？



先輩からのメッセージ

先輩

01



榎野 大樹

博士前期課程
生体医用画像研究室

整った環境で様々なバックグラウンドを持つ学生達と高めあえる場所

NAISTは研究を行う環境として最適です。他所では触ることのできないような機材やデータを扱えること、研究環境として一人に十分な広さのデスクと研究のための計算資源が与えられることや指導教員から十分な指導を受けることができる点はNAISTで研究をする上でのメリットです。私がNAISTに入ろうとした動機は学部時代から行っていた分野の内容についてさらに突き詰めて研究を行いたかったためです。結果として現在、行いたい研究ができている点からNAISTに入るという選択に非常に満足しています。私の所属する研究室では医療画像を扱いますが、機械、電気、情報系といった様々なバックグラウンドを持つ学生が在籍しており、研究について自分の思いつかないようなアイデアを提案してくれることもしばしばあります。学生のレベルも非常に高く、一緒に研究を行っていく中で自分のスキルアップを図れるかと思っています。

もし、少しでもNAISTでの研究に興味があればオープンキャンパスやいつでも見学会で積極的に興味のある研究室を訪問して学生や教授から話を聞いてみることをお勧めします。

先輩

02



伊藤 健史

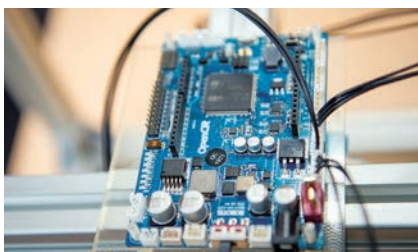
博士後期課程
数理情報学研究室

新しい研究テーマに飛び込める環境

NAISTは大学院大学というやや特殊な形態ですが、学部を持たないおかげで、多種多様な経歴と興味を持つ学生が集まりやすいという特長があります。多くの学生が学部の卒業研究とは異なる研究テーマを志してNAISTの門を叩きますが、多様性を受け入れる雰囲気の中で、入学後はスムーズに、かつ楽しんで研究を進められるケースが多いようです。

このように2年ないし5年をかけて新しい研究テーマに取り組む学生をサポートしてくれるのが、充実した研究環境です。NAISTは過去に文部科学省の「国立大学における研究・教育活動評価」で全国の有名他大学を抑えて1位に選ばれた実績を持ち、第一級の人材と設備が揃っています。また外国からの留学生も学生全体の4~5人に1人と大変多く、研究力と同時に国際性にも磨きをかけることができます。

興味を持たれましたら、オープンキャンパスや各研究室の「いつでも見学会」でぜひNAISTの魅力を感じてください。今後数年の人生の投資先としては、悪くない場所だと思えますよ！



※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

先輩

03



森 彩花

博士前期課程
幹細胞工学研究室

留学生に囲まれたグローバルな環境で 研究に没頭

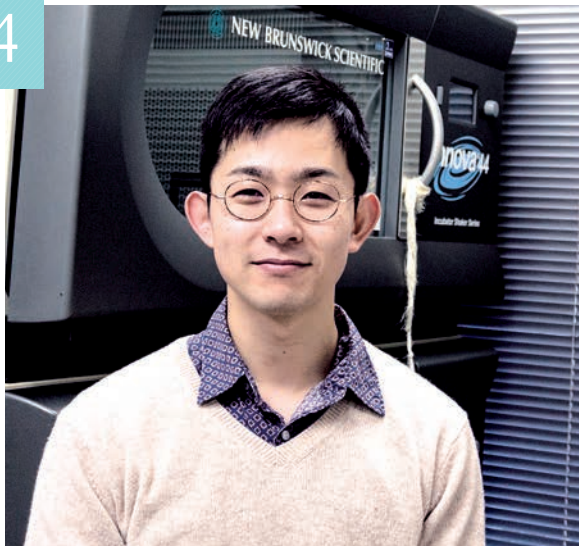
NAISTには様々なバックグラウンドを持つ意欲的な学生が集まってくるため、とても刺激で楽しい大学院生活が過ごせます。学部を持たず、全員が平等に一人からのスタートなので、新しい研究内容にも積極的にチャレンジすることができます。実際に私も学部時代はマウスの受精卵を用いた研究を行っていましたが、現在はヒトiPS細胞を用いた研究を行っています。

私がNAISTの一番の魅力だなと感じる点は、留学生の数がとても多いことです。留学生が全学生の約20%を占めているそうで、私の研究室でも学生11人中、タイ、ベトナム、マレーシアからの留学生が合わせて4人います。そのため毎週のミーティングは英語で行われます。留学生を交えた飲み会などを行ったり、プライベートで留学生と遊びに出かけたりする機会もあり、NAISTに入ってから英語力が格段に上昇しました。また、今まで全く知らなかった異文化についても学ぶ事ができています。

今後社会のグローバル化がますます進むと言われていますが、グローバルな環境で最先端の研究をするには、NAISTはうってつけだと思います。

先輩

04



岩木 薫大

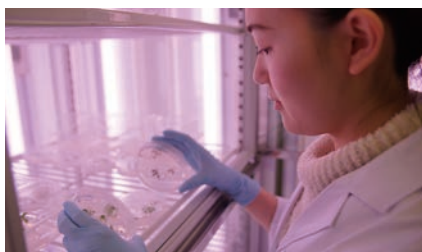
博士後期課程
構造生命科学研究室

刺激と成長を感じた院生生活

NAISTに来てよかったなと思うことは、教員の質の高さと多種多様な人材が集まっているところです。教員は世界的に有名な方が多く、研究室の環境も最先端です。そういった教員の元で指導を受けられる機会というのは大変価値あるものだと思います。また、学内で教員同士が共同研究をしている例も多く、他分野との交流がある点も魅力的です。人材面では、全学生の2割ほどが留学生であり、英語を話す機会がたくさんあります。そのため日本人学生の英会話能力も他大学と比べて高いように感じます。

個人的にわざわざNAISTに来る学生というのは少し変わった人が多い印象を受けます。そういった刺激的な同期や先輩後輩と院生生活を送れたのも僥倖かなと思います。若いうちの貴重な時間を大学院に費やすのですから、研究室選びや院生活は真剣にやりましょう。その上でもっと研究がしたいと思えれば後期課程に進学すればいいですし、飽きや諦めがついたのでしたら修士で終えればいいと思います。

NAISTで有意義なラブラフを送られる事を願っています。



※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

先輩

05



黒崎 澪

博士前期課程
有機光分子科学研究室

みんながゼロからのスタート。 難しい研究に挑戦できる環境が整っています

奈良先端大は世界最先端の研究が行える大学院大学です。研究室での生活は、毎日が充実しています。様々なバックグラウンドをもつ学生が一つの研究室に集まるため様々な考え方に触れることができ、留学生も多いので国際交流もできます。さらに、博士前期課程だけでも国際会議を含む多くの学会で発表し、論文を執筆することも可能です。これには充実した研究設備と熱心に指導してくださる先生方の存在が不可欠です。奈良先端大はどちらも揃っているのも、難しい研究にチャレンジするにはとても良い環境だと思います。

私は高等専門学校で専攻科から奈良先端大に入学し、7年ぶりに新しい環境ということで不安でしたが、みんながゼロからスタートなので仲間もたくさんできました。学部のない大学院だからこそ高専生も入りやすく、研究経験が一般大学よりも長いので活躍できると思います。

奈良先端大に興味のある方は、オープンキャンパスや研究室訪問をして、先生や学生と直接お話してみることをお勧めします。

先輩

06



中野 百恵

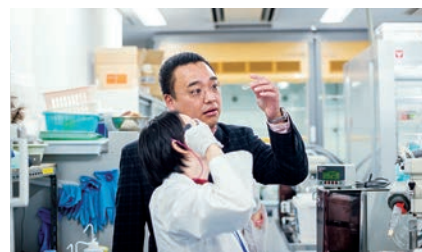
博士後期課程
反応制御科学研究室

新しい分野の研究も 奈良先端大なら可能です

奈良先端大には2つの魅力があると思います。

1つ目は、学部時代に行ったことのない分野の研究でも、研究力・専門性を高めることが出来ることです。私は、学部時代は計算化学の分野で研究を行っていましたが、新たに有機合成をしてみたいと考え、奈良先端大に入学しました。初めは、自分が授業や研究活動についていくことが出来るか不安でしたが、専門性の高い先生方、そして様々なバックグラウンドをもつ先輩方に支えられ、研究力を高めることが出来ました。また、奈良先端大には充実した実験装置があり、何不自由なく研究が出来る環境が整っています。

2つ目は、英語力を高めることが出来ることです。奈良先端大には多くの留学生がおり、研究室内で英語を使用する頻度が高い環境です。また、博士後期課程に進学すると、語学・研究留学に行くことが出来、異文化を学ぶことが出来ます。このような環境の中で、自分の力を伸ばしたい、そして将来、科学技術の分野で人の役に立つために専門性・研究力を身につけたい人はぜひ奈良先端大の見学に来てみてください。



※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

学習環境

充実した学習サポート環境

総合情報基盤センター

総合情報基盤センターは、大学の情報基盤に関する一元管理及び次世代システムの研究開発を行うことにより、大学における高度情報基盤を構築し、最先端の教育研究活動を支援するとともに、情報ネットワーク社会の進展に貢献することを目的としています。

情報処理環境

曼陀羅システム

本学では先端科学・技術に関する大学院大学の教育研究を支援するため、一元的に管理・運営されるコンピュータネットワークのもと、「曼陀羅システム」と呼ばれる以下のような全学情報環境が整備されています。

①個人常用ワークステーション

本学では学生に対して一人1台の端末が割り当てられます。専攻科目や利用方法に応じてノート型（Mac）、デスクトップ型（Mac, Windows）など複数の環境を用意しており、Microsoft Office などさまざまなアプリケーションが利用できます。これらの端末は総合情報基盤センターの集中管理によりインストールされているソフトウェアのバージョンアップが実施され、どの端末を利用しても全く同一の環境となっています。

②大容量データストレージ

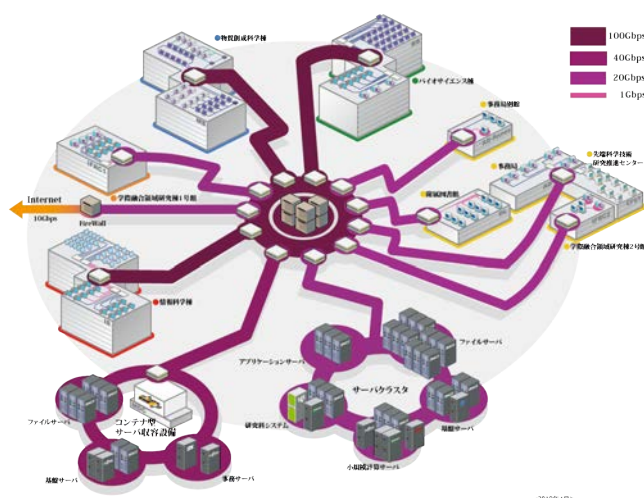
本学ではテープドライブシステムも利用した総容量25.4ペタ（10の15乗＝千兆）バイトにもおよぶ大容量データストレージを提供しています。個人常用ワークステーションで作成した研究データは、この大容量データストレージに割り当てられた個人専用スペースに保存されます。データのバックアップも毎日自動で実施されており、データ消失がない情報環境が提供されます。

③計算サーバ群

本学では大規模で複雑な科学技術計算を行うために、Oracle Big Data Appliance、Oracle Server X5-8、SuperServer SYS-1028GR-TR など最先端の計算サーバ群が提供されており、本学構成員は研究用途に応じて自由にこれらの計算機環境を利用することができます。より広範な利用用途、各種アプリケーション利用を可能とするために仮想化技術が導入されており、これらの計算サーバ群により利用者自身が計算機環境を自由に構築できます。

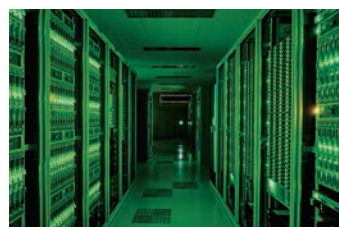
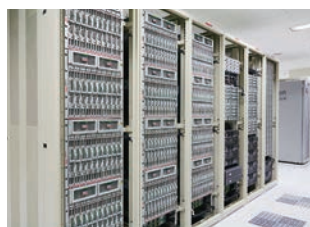
④キャンパスライセンスソフトウェア

本学では、Microsoft製品、ウイルス対策ソフトを包括契約しており、どの端末においても、これらのソフトウェアを利用できます。ウイルス対策ソフトについては個人用のパソコンにもインストールすることができます。研究に特化したソフトウェアであるMathematica、MATLABも包括契約しております。



曼陀羅ネットワーク

「曼陀羅ネットワーク」は曼陀羅システムの基盤を支えるネットワークです。曼陀羅ネットワークでは、幹線100ギガビット毎秒、支線40ギガビット毎秒という世界最速レベルの環境を提供しております。また、キャンパス全域で450メガビット毎秒の無線LANも使用できます。インターネットにも対外10ギガビット毎秒の高速専用回線で接続しており、国内外の主要サイトと超高速通信が可能です。



附属図書館 (p.31キャンパスマップ②)

附属図書館は、本学の教育・研究活動を支援するため「電子図書館」を構築し、電子化図書・雑誌をはじめ授業ビデオや学位論文等の学術情報を迅速に提供しています。来館型サービスとしては、紙媒体の文献や視聴覚資料はもちろん、「マルチメディアラウンジ」等の新しいスタイルの学びの場も提供しています。また、他大学図書館・国立国会図書館・奈良県立図書館情報館とも連携し、幅広いサービスの充実に努めています。

附属図書館（電子図書館）の主な特徴

1. 24時間開館

本学の学生および教職員は、土日・祝日も含め24時間いつでも利用することができます。図書の貸出も自動貸出機により24時間可能です。

2. 図書館ポータルサイト

電子図書館の窓口として以下のような様々な機能を提供しています。

- ・本学で所蔵する図書・雑誌・電子化資料の他、電子ジャーナル・電子ブック、論文情報等の一括検索
- ・書名や著者名だけでなく、目次などを含めたきめ細かな検索機能
- ・登録したキーワードに関連する資料の新着アラート設定
- ・貸出中図書の予約や図書購入リクエスト、他館からの文献取り寄せのオンライン申し込み

3. 授業アーカイブ

講師の許諾を得て授業を録画し、データベース化して公開する「授業アーカイブ」事業を2005年度から行っており、オンラインでいつでも視聴することができます。一部授業については学外にも公開しています。

講師とスクリーンを収めた授業風景と、スクリーンに投影されたスライド画像の両画面を自由に切替えて見るができます。また、映像の上には自動翻訳字幕の表示や付箋の付与ができ、メモ書きや重要な場面のしおりとして、授業の復習や学習の発展に活用できます。

4. マルチメディアラウンジ、シアターラウンジ

図書館資料と電子情報を活用しながらグループ学習や討論・共同作業が可能となる、主体的な学びのためのスペースを用意しています。「マルチメディアラウンジ」には電子黒板、プロジェクターやソファ、新聞・雑誌などを備えており、グループディスカッション、セミナー、リフレッシュなど様々な目的に利用できます。「シアターラウンジ」は大画面での映像視聴や小グループでのミーティングに利用することができます。

遺伝子教育研究センター

学内共同研究施設として放射線実験施設、動物実験施設、植物温室などの管理運営を行っています。

放射線実験施設は全学のアイソトープの安全管理と利用者への教育実習を行っています。

動物実験施設では、小動物の飼育管理や利用者講習会を行うとともに遺伝子改変マウスの作製も行っており、動物個体レベルでの研究のサポートをしています。植物温室は、開放系と閉鎖系の温室をもち、研究に必要な植物個体とトランスジェニック植物の管理などを行っています。これらの各施設は最先端のバイオサイエンス研究を進めるために必須なもので、専門の技術職員が配置され施設の円滑な運営に務めています。

物質科学教育研究センター

物質科学教育研究センターは、物質科学分野の先端科学技術に係る教育研究のうち、各専門分野を横断的に網羅する物質科学の三要素、新規な機能物質の設計、物質の微細加工や制御複合化による新素材の合成、新物質・新材料の機能解析と評価に関する教育研究と実験・実習を行う学内共同教育研究施設です。

データ駆動型サイエンス創造センター

データ駆動型サイエンス創造センターは 2017年 4月 4日に創設されました。当センターでは、これまで研究者の知識に基づき実験を行い、検証を行う仮説駆動型でなく、大規模なデータと人工知能技術によるデータ駆動型の新たなサイエンスを生み出す研究を目指します。具体的には、シミュレーション、データサイエンス、機械学習、人工知能などの技術を用いてマテリアルズ・インフォマティクス、ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクス分野、そして次世代の人工知能分野の新たな研究を目指します。さらに、産業界との共同研究、人材交流を行うことで成果の速やかな展開を行います。

■データサイエンス部門

データ駆動型サイエンスの基盤的研究や人工知能（深層学習、推論モデル）を中心にデータ駆動型サイエンスの基礎となる理論を開拓します。

■マテリアルズ・インフォマティクス部門

データ駆動の手法を物質創成科学に適用し、プロセスまで含めた新材料の探索や新規機能開発を行います。

■バイオインフォマティクス部門

分子生物学の発達で急増してきた生物学データの解析にデータサイエンスの手法を適用し、生命現象の統計的な解明とその応用を目指します。

□データサイエンスプログラムを中核組織として推進

2018年度から開始されたデータサイエンスコースにおいて、数理統計から深層学習、マテリアル/ケモ/バイオインフォマティクスの基礎、そして、プロジェクトベースラーニング (PBL) により構成される講義の設計、実施を行い、次世代の研究者、データサイエンティストを養成します。



◆図書館外観 (左) ・シアターラウンジ (上) ・マルチメディアラウンジ (右)

経済支援

本学では、経済支援に関する全学的な方針として、「学生への経済的支援に関する方針」を策定し、同方針に基づき、学生が教育・研究活動に専念することができるように、大学をあげて、最大限の経済支援を実施しています。



必要な学費

入学料

¥282,000

授業料

	1年次・春学期	1年次・秋学期	2年次・春学期	2年次・秋学期		
博士前期課程	¥267,900	¥267,900	¥267,900	¥267,900		
	1年次・春学期	1年次・秋学期	2年次・春学期	2年次・秋学期	3年次・春学期	3年次・秋学期
博士後期課程	¥267,900	¥267,900	¥267,900	¥267,900	¥267,900	¥267,900

※上記は予定額です。入学時及び在学中に学生納付金の改訂が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用されます。
 ※春学期入学かつ標準修業年限である博士前期課程2年間（4学期分）、博士後期課程3年間（6学期分）を基に算出しています。
 ※上記のほか、入学時に本学同窓会への御入会をお願いしております。（永年会費2万円）詳細はp.32をご参照ください。

経済支援の実施状況

①優秀学生奨学制度

- ・優秀な博士後期課程学生の1年次授業料を**全額免除**。
 - ・支援対象者は、毎年度15名以内。
 - ・優秀学生として表彰。
- 【対 象】博士後期課程学生



②社会人学生への奨学支援

- ・企業等に所属している学生の授業料**全額免除**又は奨学一時金**20万円**の給付を実施。
 - ※入学料及び授業料相当額を所属企業等が負担している者を除く。
 - 応募者の中から審査の上、対象者を決定。
- 【対 象】博士後期課程学生

③経済的困窮者に対する授業料免除制度

- ・博士前期及び後期課程学生の経済的困窮者を幅広く支援し、さらに**博士後期課程学生のより手厚い支援**を実施。
 - ・本学の定める免除基準（家計基準及び学業基準）を満たす学生は、過去5年間（2015～2019年度）**100%**免除認定。
- 【対 象】博士前期課程及び博士後期課程学生

■入学料・授業料免除、入学料徴収猶予

本学では、以下①②の方を対象者とし、選考の上、入学料/授業料の全額又は一部を免除する制度があります。また、入学料については、徴収猶予の制度もあります。

- ①経済的理由により入学料又は授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方
- ②入学前1年以内に、学費負担者が死亡し、又は学生若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、入学料又は授業料の納付が著しく困難であると認められる方

④ T A ・ R A 優先採用制度

・ T A、R A に優先的に採用することによって、**授業料の半額分を支援**し、さらに個々の状況に応じ、**追加の支援**を実施。

【対 象】 5 年一貫コース所属学生及び博士後期課程学生

■ティーチング・アシスタント (TA) / リサーチ・アシスタント (RA)

①TA 博士前期課程 2 年次以上の学生を対象として、将来、教育者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、教育者としてのトレーニングの機会を提供するため、TA 制度を設けています。

〔2018 年度採用実績〕

205 名採用 待遇／年間（最大） 5～369 時間（時給 1,234～1,476 円）

②RA 主に博士後期課程の学生を対象として、将来、研究者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、RA 制度を設けています。

〔2018 年度採用実績〕

228 名採用 待遇／年間（最大） 1～1,075 時間（時給 1,234～2,042 円）

※担当時間数・時給については、課程・研究分野により変わります。

⑤ 学生宿舍への優先入居

・ 博士後期課程への進学意欲の高い学生に**優先的に学生宿舍**を提供。

・ 学生宿舍は、寄宿料(共益費込み)で**月額 1 万円**、インターネット利用料無料、キャンパス近接立地。※単身用居室

【対 象】 5 年一貫コース所属学生及び博士後期課程学生

⑥ 日本学生支援機構貸与奨学金（第一種奨学金及び第二種奨学金）への優先推薦

・ 博士後期課程への進学意欲の高い学生を日本学生支援機構貸与奨学金へ**優先的に推薦**。

【対 象】 5 年一貫コース所属学生

■日本学生支援機構奨学金

学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には、本人の出願に基づいて選考の上、奨学金が貸与されます。日本学生支援機構奨学金制度には、無利子の第一種奨学金制度と有利子の第二種奨学金制度があります。

第一種奨学金の貸与を受けた者の**30%**を上限として、貸与期間中に特に優れた業績を挙げた者を対象に、貸与期間終了時に**奨学金の全部又は一部の返還を免除**することができる〔特に優れた実績による返還免除制度〕が実施されています。

	入学時貸与月額など	
	第一種奨学金（無利子）	第二種奨学金（有利子）
博士前期（修士）課程	次の貸与月額から選択 50,000 円、88,000 円	次の貸与月額から選択 5・8・10 13・15 万円
博士後期（博士）課程	次の貸与月額から選択 80,000 円、122,000 円	
2019 年度入学貸与者	199 名 (100%)	12 名 (100%)

（ ）内は貸与率（貸与者／貸与希望者）。この貸与率は追加採用、臨時採用を含む 2019 年度最終実績である。

⑦ 長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程：2 年間、博士後期課程：3 年間）で修了することが困難な者が、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修できる制度です。

入学時に申請し、認められた場合、標準修業年限に基づく授業料の合計金額を長期履修期間として認められた年数で除した額が年間授業料となります。

〔例〕博士前期課程を長期履修（3 年間で履修）する場合の授業料

2 年間の授業料 1,071,600 円 ÷ 3 年 = 年間授業料 357,200 円

生活支援

学生宿舎

本学では、619戸の学生宿舎を用意しています。
学生宿舎へ入居することが、十分な研究時間の確保と経済的な負担の軽減の一助となっています。

24時間体制で研究活動をサポートするため、宿舎にいながらでも、附属図書館や国内外の学術研究機関のネットサービスを利用できるネット環境を提供しています。

■日本人学生・外国人留学生のシェアタイプ型学生宿舎

国際的な視野を持つ人材を育成することを目的として、日本人学生・外国人留学生のシェアタイプ型学生宿舎の新設を予定しています。入居は、2021年4月開始予定です。

■各年度入学者に係る入居率

年度	博士前期課程	博士後期課程
2017年度	59%	100%
2018年度	45%	100%
2019年度	47%	100%

※入居率＝入居者／入居希望者

※2019年12月1日時点（年度途中入居者含む）

※留学生を除く

【博士前期課程の入居者選考方法】

入居者の選考は、入学試験の成績をもとに決定します。

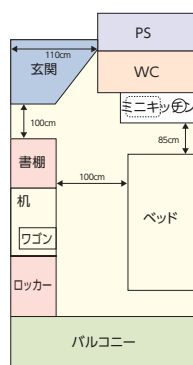


学生宿舎

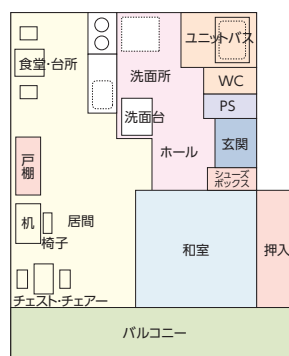
	単 身 用	夫 婦 用	家 族 用
居 室 数	559室	50室	10 室
居 室 面 積	13㎡	36.98～41.45㎡	51.56 ㎡
設 備 等	机、ベッド、ミニキッチン、トイレ等	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機等	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機等
共 有 設 備	浴室、ランドリー室、ラウンジ	—	—
寄宿料（共益費込み）	月額 10,000円	月額 12,500円～13,000円	月額 15,300円
光 熱 水 料	入居者負担	入居者負担	入居者負担
インターネット回線	無料	無料	無料



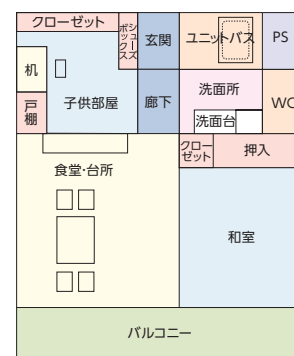
単身用居室



単身用居室



夫婦用居室



家族用居室

■学生宿舎駐車場

駐車場は249台分あり、利用希望者のほぼ全員が割当てを受けています。利用料金は無料です。

大学借り上げ住宅【(独)都市再生機構】

学生宿舎への入居が叶わなかった方、また入居を希望されなかった方の下宿探しの一助として、大学周辺の(独)都市再生機構の3団地(中登美第三団地、平城第一団地、富雄団地)賃貸住宅を大学が借り上げ、希望者に提供しています。

■家賃等の目安

間取り1DK～3DKの物件 ●家 賃：3万5千～5万円
●共益費：3千円前後
●保証金：なし

民間アパート等

アパート、マンションを斡旋する業者を紹介します。

■家賃等の目安

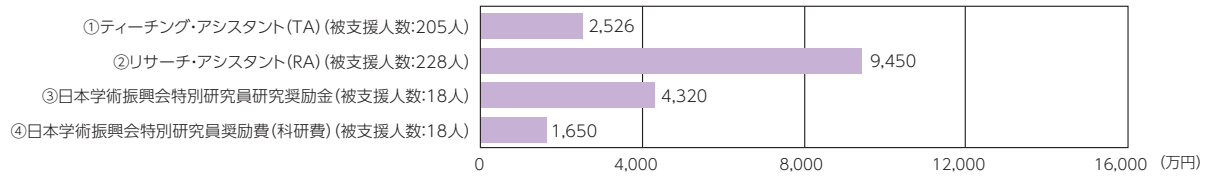
(本学周辺におけるワンルームマンションの場合)

間取り6～7畳の物件 ●家 賃：2～5万円
●共益費：0～5千円
●保証金：5～20万円

グラフで見る学生支援

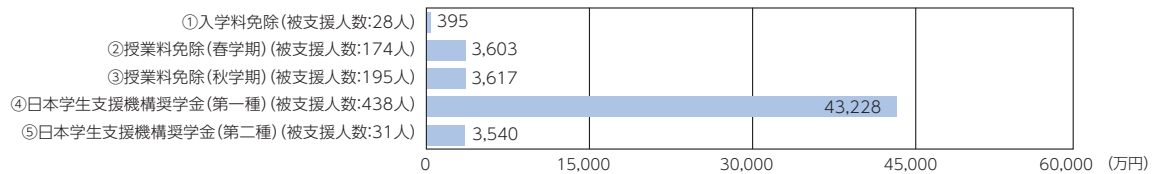
大学院教育・研究活動支援

※下記支援額は、2018年度における本学在学生に対する経済支援の概算数値



学生生活支援

※下記支援額は、2019年度における本学在学生に対する経済支援の概算数値



その他の学生支援

積極的な海外派遣支援

共同研究、寄附金等の外部資金や各種競争的資金、支援財団による助成事業等により、学生が海外の国際学会等において論文(研究)発表するための費用(渡航費、滞在費、海外旅行保険費等)に対する助成や、英語研修や研究活動のために海外の機関への派遣を積極的に行っています。(2018年度海外派遣人数:339人)

学生なんでも相談

本学は、学生のキャンパスライフが快適であることを願っています。しかし、様々な問題や悩みに直面することがあると思います。本学でそういった学生を支援するため、相談員を配置し、「学生なんでも相談」窓口を設けています。

相談員が、問題解決へのアドバイスのほか、相談内容によっては、適切な相談窓口を紹介しています。

学生教育研究災害傷害保険(略称:学研災)・学研災付帯賠償責任保険(略称:付帯賠償)

学研災は、学生が正課中、学校行事中、課外活動中、キャンパス内の休憩中及び通学中や学外実習等の移動中に被った不慮の災害事故に対する救済措置として全国の国・公・私立大学等の学生を対象とした傷害保険です。

また、付帯賠償は、学生が正課中、学校行事、課外活動及びその往復中で、他人にけがをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険です。

<保険料>

博士前期課程 2,430円

(学研災 1,750円、付帯賠償 680円)

博士後期課程 3,620円

(学研災 2,600円、付帯賠償 1,020円)

1DAYスケジュール
宿舎編

博士前期課程
生体医用画像研究室
榎野 大樹さん

島根県出身です。宿舎を選んだのは「研究室まで近い」「家賃が安い」「光熱費が安い」にメリットを感じたからです。研究室までの距離が近いので、朝は時間に多少ルーズになっても問題ありません。普段、研究が忙いときは自炊がありませんので、週末に自炊をしている時間に一人暮らしの充実感を感じます。できるだけ日曜は休日にするようにしています。休日は映画を見に行ったり、写真撮影が趣味なので奈良公園などに出かけたりしています。

1DAYスケジュール
通学編

博士前期課程
幹細胞工学研究室
森 彩花さん

学内に留学生が多く、私が所属する研究室には4人の留学生がいます。普段から英語で研究の話や雑談ができる環境で、英語力や異文化理解が深まりました。iPS細胞を使って研究しているので、培地交換などで土日祝関係なく、ほぼ毎日研究室に来る必要がありますが、空いた時間にアルバイトをするなど「日々成長」を目標に過ごしています。就職は第1希望の製薬会社の研究職に決まり、将来は新薬を開発して患者さんやご家族のためになりたいと思います。

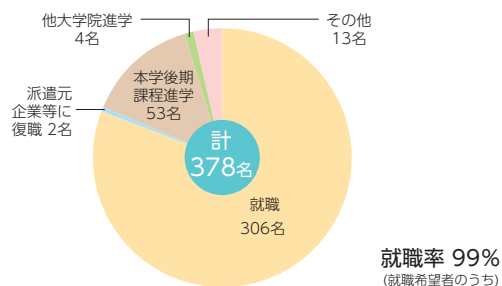
※このページに掲載している学生の所属等は撮影当時のものです。

修了後の進路及び就職状況

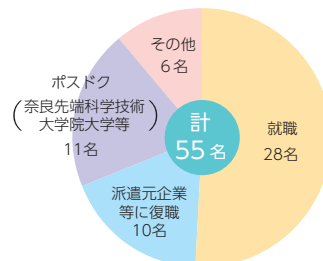
優秀な修了生たちが、幅広い分野の企業や大学で活躍中

※2019年4月1日現在

2018年度博士前期課程修了者 全体

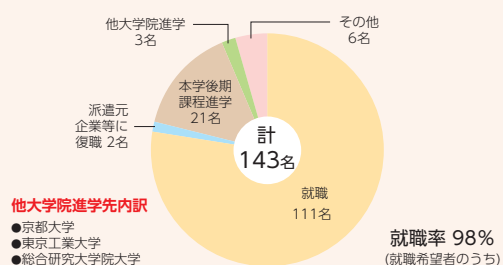


2018年度博士後期課程修了者 全体



情報科学研究科 (2018年度修了者)

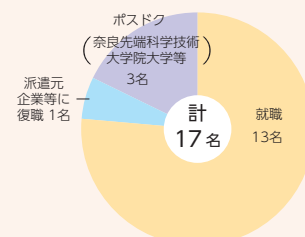
【博士前期課程】



主な就職先

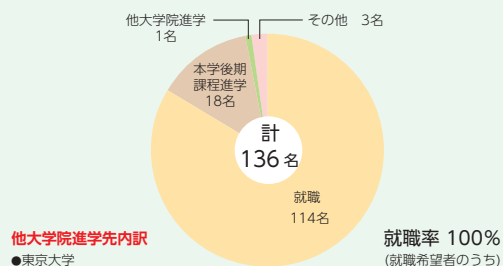
- アクセンチュア(株)
- 朝日放送テレビ(株)
- 株式会社NTTドコモ
- 関西電力(株)
- 株式会社津製作所
- 住友電気工業(株)
- ソニー(株)
- 株式会社ディー・エヌ・エー
- 株式会社デンソー
- トヨタ自動車(株)
- 日本電信電話(株)
- 日本マイクロソフト(株)
- 株式会社総合研究所
- パナソニック(株)
- 富士通(株)
- 本田技研工業(株)
- 株式会社村田製作所
- ヤフー(株)
- 楽天(株)
- 国立研究開発法人理化学研究所

【博士後期課程】



バイオサイエンス研究科 (2018年度修了者)

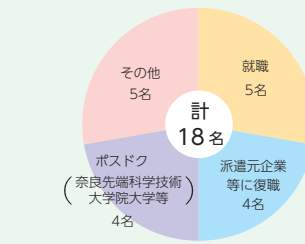
【博士前期課程】



主な就職先

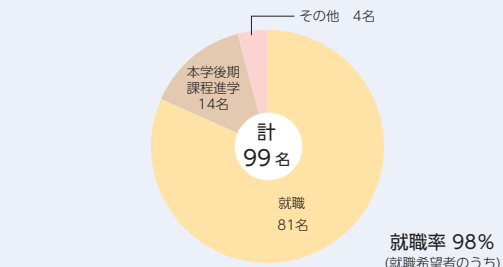
- 味の素冷凍食品(株)
- 出光興産(株)
- 岩谷瓦斯(株)
- エーザイ(株)
- エースター(株)
- 大関(株)
- 参天製薬(株)
- シャープ(株)
- ダイキン工業(株)
- 大王製紙(株)
- タカラバイオ(株)
- タマノイ酢(株)
- 日清食品(株)
- 日本たばこ産業(株)
- ファイザーR&D(同)
- マツダ(株)
- 丸大食品(株)
- 雪印メグミルク(株)
- ロート製薬(株)
- 株式会社ロッテ

【博士後期課程】



物質創成科学研究科 (2018年度修了者)

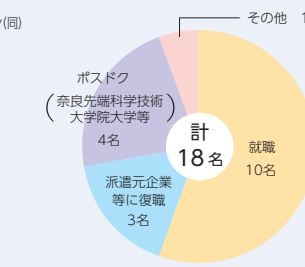
【博士前期課程】



主な就職先

- 株式会社原製作所
- 花王(株)
- 関西電力(株)
- キャノン(株)
- JSR(株)
- ソニー(株)
- ダイキン工業(株)
- 太陽誘電(株)
- 株式会社デンソー
- 東亜合成(株)
- 東京応化工業(株)
- 東芝メモリ(株)
- トヨタ自動車(株)
- 日本ペイントホールディングス(株)
- 日立化成(株)
- 古河電気工業(株)
- マイクロンメモリジャパン(同)
- マクセル(株)
- 三菱電機(株)
- 株式会社村田製作所

【博士後期課程】



先端科学技術研究科 (2018年度修了者)

【博士後期課程】

派遣元企業等に復職：2名

就職ガイダンス

大学院修了後に民間企業への就職を希望する学生を対象とした就職ガイダンスを実施しています。ガイダンスの内容は、就職活動の進め方、業界・企業研究講座、履歴書・エントリーシート作成講座（自己PR、志望動機）、面接対策講座など、就職活動のタイミングに合わせてタイムリーに実施しています。

併せて、筆記試験（webテスト）やエントリーシート添削講座、模擬面接、公務員ガイダンスなど、多岐にわたる実践的な講座も実施しています。



キャリア相談《予約制》

キャリア支援室のUEA（University Education Administrator）と学外専門家をアドバイザーとして、学生の皆さんのキャリア相談を受け付けています。

アドバイザーには企業採用業務経験者もあり、就職活動の進め方から業界や企業の探し方、履歴書やエントリーシートの添削や面接練習など、きめ細かいアドバイスが受けられます。

1回30～45分でシステムから予約を受け付けています。



業界研究会・企業説明会

学生の就職活動の時期にあわせ、さまざまな「企業との接点の場づくり」を実施しています。

地域企業との出会いの場である「Career Forum」（12月）、博士後期課程学生・ポスドク向けの交流イベント「JOB FESTA」（12月）、研究領域ごとの「業界研究会」（2月）、学内合同企業説明会（3月）、個別企業を招いての説明会など、年間でのべ150社ほどの企業と学生との接点となるイベントを開催しています。

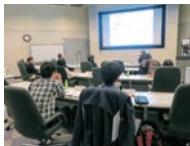


キャリアアップセミナー

研究者としてのキャリアに必要な素養・見識を高めるため、企業やOB／OGとの接点となるイベント、ジョブサーチや英語論文の書き方の講座などを定期的に開催しています。

なかでも「トップセミナー」は、企業の取締役などと直接意見交換する場となっており、研究者としての視野の拡大や自身のキャリアビジョンの検討に役立ちます。

また、学生が企業を訪問し、企業の風土や研究に対する考えなどを直接学ぶ「企業見学会」も、適宜、案内しています。



留学生へのキャリア支援

留学生のキャリアに関するアドバイスを専任で行うUEA（University Education Administrator）と客員教員を配置し、英語による就職ガイダンスやキャリア相談などを行っています。

また、日系企業を目指す留学生向けの「日本語V」などの授業、企業体験プログラムや中期インターンシップ、OB／OG留学生との交流会、企業との交流会、起業家を目指す留学生のためのセッションを行っています。



海外での活躍を目指す学生への支援

外資系企業を目指す学生のための志願成セミナー、海外の企業や組織での研究インターンシップ、学外で行われている種々の海外インターン情報の共有など、グローバルに活躍を目指す学生のためのさまざまな支援を実施しています。

キャリア支援に関するサービス

- 企業研究や就職活動をサポートする図書の貸出
- インターンシップや求人情報データベース（キャリアスUC）
- 博士後期課程学生・ポスドク求人情報システム（OfferBox Ph.D.）
- 企業等で活躍するOB／OG情報の提供
- その他の日常的なサポート（各種情報の発信、履歴書用紙の配布、など）

キャリア支援スケジュール（予定）

			4月	6月	8月	10月	12月	2月	4月			
MC (DC)	就職 ガイダンス	講座	スタート アップ セミナー	インターン セミナー	① 就活の進め方 と業界研究	③ ES講座② (志望動機)	④ 面接対策 (個人)	⑥ グループ ディスカス				
		就活 対策 (テスト等)			② ES講座① (自己PR)	⑤ グループ 模擬面接	⑤ 公務員 対策		Reスタート 講座			
			ES添削 (基礎編)							筆記試験 (SPI等)	ES添削 (実践編)	ES添削個別指導 (需要に応じて開催)
DC PD キャリア アップ セミナー	トップセミナー・ 企業訪問		トップセミナー①			企業訪問 (3～4社) (C-ENGINE 主催の企画に参画)			トップセミナー②			
	講座・イベント		DC向け ジョブサーチ		同窓生 講演会		JOB FESTA		英語論文 作成講座			
仕事理解・その他	業界・企業 研究					外資系企業 志願成セッション		キャリア フォーラム		業界 研究会		
	中長期研究 インターンシップ		A社 報告・説明会									
			B社 説明会									
	キャリア相談 (留学生含む)		随時実施									
			← 2月～6月は相談体制を強化 →									
留学生向け施策 (英語)	就職 ガイダンス	春入学	就活の 進め方			自己 分析①	自己 分析②	求人情報 の探し方	キャリア ガイダンス	日本語 履歴書	面接 対策	
		秋入学	就活の 進め方			自己 分析①	自己 分析②	求人情報 の探し方	キャリア ガイダンス	日本語 履歴書	面接 対策	
	就職系イベント 企業体験プログラム インターンシップ		OB留学生 との交流会			企業との 交流会			起業情報 共有セッション		企業 説明会	
	日本語力向上		「日本語Ⅴ」などの授業									

企業人事担当者からのメッセージ

企業人事担当者①



小田切 優斗

本田技研工業株式会社
人事部 人材開発課 採用グループ

NAISTでの学びを活かして、ともに未来を切り開こう

Hondaは「夢の原動力 :The Power of Dreams」を合言葉に、バイク・クルマ・航空機など幅広い事業を通じてお客様に喜びを届けているモビリティメーカーです。

世界中に約3200万人にのぼるお客様により良い製品を提供するために、研究開発や生産活動と真摯に向き合っています。

ここ数年自動車業界を取り巻く環境は目まぐるしく変動し、CASEに代表される業界のうねりはこれまでに経験したことのない非常に大きなものとなっていますが、NAISTで最先端の技術・知識を学んだOB・OGの皆さんは、過去の常識

にとらわれることなく新しいアイデアや感性をHondaの中でもいかに発揮しています。

決してたやすい道ではない研究開発においても、OB・OGの皆さんが実力をいかに発揮できているのはNAISTという環境で分析力や行動力、飽くなき向上心を身に付けているからだと感じます。これからも最先端の技術・知識への好奇心や夢への思いを大切にするNAISTの皆さんとともに、世界中のお客様に喜びを提供していきたいと強く願っています。

夢への原動力を信じて、ともに未来を切り開いていきましょう!

企業人事担当者②



小國 愛実

サントリーホールディングス株式会社
人事部

挑戦と創造の歴史にあなたも新たなページを

「やってみなはれ」これはサントリー創業者の鳥井信治郎の口癖でした。

サントリーは創業以来、常にこのチャレンジ精神をもって「新しい価値の創造」に向かって積極的に企業活動を推進し、酒類、食品・清涼飲料から、健康食品・花・外食と常に新しい市場を創造してきました。

弊社では、研究所や工場を中心に奈良先端科学技術大学院大学様(以下NAIST)のOB・OGが複数名活躍しています。ビールの醸造や飲料の商品開発など、分野は様々です。

必ずしも大学院での研究が業務に直結している

とは限りませんが、業務へのアプローチの仕方や論理的思考など、大学院時代での様々な経験が大いに役立つものと思います。

また、NAISTでは、挑戦する人材を養成されており、サントリーの「やってみなはれ」の社風と似ているように感じます。

サントリーの今日に至るあゆみは、まさに絶えざる挑戦と創造の歴史です。「挑戦」と「創造」、この歴史にあなたも新たなページを加えてみませんか。

今後もNAISTの方々といっしょに縁を持つことができれば大変嬉しく思います。

企業人事担当者③



菊池 知子

株式会社村田製作所
人事部採用課

新鮮な発想・チャレンジ精神で新しい風吹き込む

様々な製品で「世界 No.1 シェア」を誇る、村田製作所。「電気が使われる場所なら、どこでも」。きっとあなたのPC、スマートフォン、TV、自動車にも「ムラタの技術」があるはず。村田製作所では、世界に未だ存在しないモノを作り出すために、材料・商品の開発から加工技術や設備開発、またソフトウェア開発まで…ほぼ全てを自社の人材でこなします。

もちろん、NAIST出身者の方々も、幅広い年齢の方が幅広い分野で活躍してくれています。様々な分野において最新のテクノロジーに対応した設備環境のもと、最先端の研究を行うことがで

きるNAISTで学び・挑戦したことが、きっと活かしているでしょう。

また、私たちが掲げる合言葉は、「Innovator in Electronics」。常に新しい価値を創造し、提供していくことで、無限の可能性を秘めたエレクトロニクスの世界を「改革していく」企業でありたいと思っています。NAISTでの学びで身につけた、新鮮な発想・チャレンジ精神で、ムラタに新しい風を吹き込んでくれる方をお待ちしています。

修了生からのメッセージ

修了生①



岩田 倫明

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構 (AMED)
総務部人事課
(前・産学連携部医療機器研究課)
2009年度 博士後期課程修了

NAISTはこれからの自分の糧を育むところ

このパンフレットを手にした皆さんは、これからNAISTを受験しようかな?どうしようかな?と考えておられる方だと思います。

私は大学3回生の時に進学することは決めていたのですが、当時の私がやりたかったのは情報科学 × 医療の研究。内部進学では医療面での環境が不十分だと感じていたため、同級生と参加したオープンキャンパスでその環境を見つけて、これだ!と思った記憶があります。

幸いにも入試を突破することができ、最初の1年間は密度の濃い授業を、2年目は修士論文のために先生や学友と遅くまで議論をしていま

した。NAISTの素晴らしいところは、多様なバックグラウンドを持った先生や学友が集まり、様々な角度から侃々諤々の議論ができること。これが研究の質を高めます。

その様々な角度から議論できたことが、その後の博士後期課程でも、そして今でも大きな糧となっています。現在、私は医療分野の研究開発のため、FA（ファンディングエージェンシー）の一員として仕事していますが、この研究の質を高める議論が自らの武器となっています。

NAISTのこの素晴らしい環境に飛び込んで、ぜひ自らの糧となるものを育てて下さい。

修了生②



菱沼 亜衣

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター
水田作研究領域 大豆育種グループ
2013年度 博士前期課程修了

教授陣の丁寧な指導のおかげで成長することができました

奈良先端大への進学は、当時の私にとっては大きな決断でした。農学部出身で理学系研究に馴染みがなく、最初はくじけそうでしたが、丁寧に指導して下さい教授陣や先輩方に支えられながら、次第に研究の楽しさが分かるようになりました。奈良先端大ではモデル生物を使った基礎的な研究を一から指導していただき、技術面だけでなく、研究の展開や考え方で、ディスカッションやミーティングを通して教えて頂きました。

現在は、全く異なる分野で研究者として仕事をしています。研究分野が違って、自分なりの実験遂行のコツや研究との向き合い方など、奈良

先端大での経験が生きているなと実感することは多いです。また、仕事の中での研究というのはなかなか集中して行うことが難しいため、研究に没頭できていた奈良先端大の2年間は本当に貴重だったと感じています。特に将来研究職を目指している方には、研究の基礎を鍛えて頂きながら、そこに集中できる、とても良い環境が揃っていると思います。

新しい環境に飛び込むのは勇気が要ることですが、その挑戦を通して得られる成長を、ぜひ奈良先端大で経験してください。

修了生③



飯野 敬矩

東京大学大学院工学系研究科
電気系工学専攻
主任研究員 (PD)
2012年度 博士後期課程修了

奈良先端大の環境は皆さんのチャレンジを後押ししてくれるはず

奈良先端大の魅力の1つは、様々な側面から学生を刺激する環境およびサポートする体制があり、これらの恩恵を比較的受けやすいことだと思います。手前味噌ですが、私が、奈良先端大に入学して良かったと感じたことの一部を、以下に書き綴ってみたいと思います。

まず、様々な背景を持つ人達と交流できたことが挙げられます。奈良先端大には、多様な専門分野の学生に加え、色々な国からの留学生、企業から派遣された研究者、社会人経験者なども集まります。専門分野や立場の異なる方々との交流は、皆さんの可能性を広げるきっかけになると

思います。

次に、充実した経済支援です。民間企業を辞して入学した私の学資と生活費の源は、そう多くない貯金だけでした。それでも、授業料免除制度、奨学金、TA雇用等のおかげで、アルバイトをせずに研究に取り組むことができました。これらの支援には、とても感謝しています。

奈良先端大には、皆さんの興味や可能性を広げるためのチャレンジを後押ししてくれる環境と準備があると思います。皆さんが、奈良先端大を使い倒して、今後、ますます発展されることを願っています。

国際交流

本学は、国際社会に貢献する人材を育成し、世界最高水準の研究成果を社会に提供する文化学術の卓越的中心をめざしています。積極的な国際交流により、教育研究のグローバル化を推進しています。

グローバルキャンパスの実現

本学では、グローバルリーダー育成のため、教育環境のグローバル化及びグローバル化教育に積極的に取り組んでいます。戦略的に留学生を受け入れ、2020年1月1日現在では、285人、36か国・地域の学生が在籍しています。多様な出身国や文化的背景を持つ学生及び教職員が共に学び、研究するグローバルキャンパスを実現するとともに、海外の教育研究機関との教育研究連携ネットワークの構築を進め、国際的な頭脳循環のハブとなることをめざしています。

グローバルキャンパスイベント NAIST Tea Time

キャンパス内の国籍などを越えたコミュニケーションの輪を広げるためにグローバルキャンパスイベントとして「NAIST Tea Time」を実施しています。このイベントでは、NAISTの学生・研究者・教職員が自国の代表的なお菓子を紹介し参加者に振る舞い、文化、歴史、趣味等に関する発表を通して多国籍間の相互理解を深める機会を提供しています。また、書道などの文化体験の機会もあり、国籍や所属の違いを越えて交流を深めています。



国際交流懇話会

本学の外国人留学生・外国人研究者と学長、理事、教職員、学生及び学外の交際交流団体関係者等が交流を深めることを目的として1995年度より毎年、「国際交流懇話会」を実施しています。留学生や外国人研究者の家族等も含め、300名近くの参加者があり、例年、留学生が民族衣装を身にまとい、母国の歌や踊りを披露するなど、多様な国の学生が国際交流を深めています。



海外留学支援制度

本学では、本学と学術交流協定を締結している海外の大学や研究機関を中心に1か月から数か月の期間、日本人学生が海外の大学や研究機関に留学してインターンシップや共同研究に参加するプログラムを提供しており、多くの日本人学生が海外留学しています。また、文部科学省が主催している「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～」に本学の学生から採択実績があり、希望者には本プログラムを通じて留学した在学生による個別相談対応を行っています。

学術交流協定の締結

本学では、海外の教育研究機関と、共同研究、共同シンポジウム、講義の実施、学術情報及び学術資料の交換並びに教職員及び大学院学生の交流を行っています。これらの交流を促進するため、学術交流協定の締結を積極的に進めています。

協定は相手大学等と事前の協議を重ねて締結されており、現在、大学間協定は24カ国/地域・72件、部局間交流協定が18カ国/地域・38件締結されています。

【全学】

●光州科学技術院
●ハンバット大学
●浦項工科大学
●中国科学院 遺伝学発生生物学研究所
●天津理工科大学
●遼寧大学
●蘇州大学
●国立交通大学
●南台科技大学
●国立台湾科技大学
●ハノイ自然科学大学
●ベトナム国家大学 ハノイ工業技術大学
●フエ大学科学大学校
●ベトナム国家大学 ハノイ自然科学大学
●郵政電信工芸学院ホーチミン市校
●マヒドン大学
●チュロンコン大学
●カセサート大学
●チェンマイ大学
●モンクット王工科大学トンブリ校
●マレーシアサイエンス大学
●マラヤ大学
●マレーシア工科大学
●トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学
●マレーシア国民大学
●アテネオデマニラ大学
●フィリピン大学ディリマン校
●ガジャマダ大学
●ボゴール農科大学
●インドネシア大学

●ハサヌディン大学
●バンドン工科大学
●ジェンダル・ソーデルマン大学
●インド工科大学ボンベイ校
●インド工科大学ジョードプル校
●バングラデシュ工科大学
●エディンバラ大学
●ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン数理学科
●ルーバン・カトリック大学
●ポールサバチエ大学
●エコールポリテクニク
●エコールノルマル・シュベリウール・パリサクレ校
●リール第一大学
●ギュスターヴ・エッフェル大学
●テレコムパリテック (フランス国立高等電信大学)
●ソルボンヌ大学
●パリサクレ大学
●レンス第一大学
●ESIGELEC工学技術高等学院
●リヨン高等師範学校
●アーヘン工科大学
●ユストゥス・リービヒ大学ギーゼン
●カールスルーエ工科大学
●アーヘン工科大学
●レーゲンスブルク大学
●コーブルク大学
●カリアリ大学
●トレント大学
●サンクトペテルブルク工科大学
●聖パウロ使徒情報科学技術大学
●クイーンズ大学キングストン校
●カリフォルニア大学デービス校

●ハワイ大学マノア校
●カリフォルニア大学サンディエゴ校
●ミシシッピ州立大学
●サンパウロ連邦大学
●シェイク・アンタ・ジョップ大学
●ナイロビ大学
●シドニー工科大学
●マコーリー大学
●ニューカッスル大学
●アデレード大学
●ユニテック工科大学

【先端科学技術研究科】

《情報科学領域》

●韓国科学技術院 文化技術研究科/産業デザイン工学
●慶北大学校 エレクトロニクス工学研究科
●香港城市大学 コンピューターサイエンス学科
●東北師範大学 電子情報技術院
●雲南大学 情報工学部
●ベトナム科学技術院 情報技術研究所
●ベトナム国家大学 ホーチミン市科学大学 電子通信学部
●ベトナム国家大学 ダナン市科学技術大学 電子通信学部
●セパル/バンベル工科大学 インダストリアル テクノロジー研究科
●インド KJ Somaiya 工学部
●テレコムスードパリ国立電気通信大学院大学
●パリ電子工学技術高等学院
●カーン国立工学技術高等学院
●ウルム大学 工学/コンピューターサイエンス学部
●ミュンヘン工科大学 インフォマティクス学部
●ミュンヘン工科大学 電気・コンピュータ工学部
●オウル大学 理学部 情報処理科学科

●トゥルク大学 医学部
●サンパウロ大学
●核エネルギー農業センター
●農学部ルイスデケイロス校
●数学統計研究所

《バイオサイエンス領域》

●南京農業大学 生命科学研究科
●南京大学 生命科学研究科
●ベトナム科学技術院 バイオテクノロジー研究所
●テマセク生命科学研究所
●南北大学 薬学科
●ブリティッシュコロンビア大学 理学部
●ミネソタ大学 バイオテクノロジー研究所

《物質創成科学領域》

●南京大学 化学工程院
●国立陽明大学生医光電研究所
●ベトナム科学技術院 物質科学研究所
●南洋理工大學 物質科学工学部
●インド自然科学教育研究大学 トリパンドラム校
●ライデン大学 理学部
●デルフト工科大学・電子数理情報工学部
●ラインマイン/応用科学大学 工学部
●チューリヒ大学 理学部
●グラーツ工科大学 固体物理学研究所
●デブレチェン大学 物理学研究科
●ミシガン大学 工学部

学術交流協定締結状況 (2020年1月31日現在)

留学生

国・地域 区 分		アジア												アフリカ						中南米					ヨーロッパ					合 計								
		中 国	マ レ ー シ ア	イ ン ド ネ シ ア	タ イ ラ ン	フ ィ リ ピ ン	ベ ト ナ ム	バ ン グ ラ デ シュ	イ ン ド ネ シア	韓 国	台 湾	パ キ ス タ ン	アフ ガ ニ ス タ ン	モ ン ゴ ル	ネ パ ール	コ ート ジ ボワール	エ チ オ ピ ア	ケ ニ ア	ガ ン ビ	エ ン ジ ブ	タン ザ ニア	セ ネ ガル	モ ザン ビーク	ブル キナ ファソ	ブ ラ ジ ル	メ キシ コ	エ ク アド ル	コ ロン ビア	グ ア テ マ ラ		ベ ネ ズ エ ラ	ド ミニ カン	プ エル トリ	ベ ル ギー ス	フ ランス	ロ ーマ ニア	イ タ リ ヤ	
国費外国人留学生	博士前期課程 (うち女性)	1 (4)	4 (1)	2 (4)	7 (1)	2 (1)					1				1 (1)	1 (1)						1 (1)	1 (1)					1 (1)	1 (1)				1 (1)			27 (11)		
	博士後期課程 (うち女性)	9 (3)	19 (9)	8 (5)	9 (3)	11 (2)	5 (2)	4 (2)						2	1 (1)	1 (1)		1 (1)							1 (1)		1 (1)				1 (1)	1 (1)				74 (26)		
	研 究 生 (うち女性)	3 (1)	4 (4)	1 (1)		2 (1)						1 (1)				1 (1)			1 (1)	1 (1)					1 (1)		1 (1)									16 (8)		
私費外国人留学生	博士前期課程 (うち女性)	27 (7)	3 (2)	2 (4)	10 (4)	1 (1)	3 (1)			5 (2)	5 (3)											1 (1)													1 (1)			58 (19)
	博士後期課程 (うち女性)	21 (6)	7 (4)	13 (4)	6 (2)	8 (5)	9 (4)	1 (1)	1 (1)	3 (1)	2 (1)		1 (1)																	2 (1)		1 (1)				75 (28)		
	研 究 生 (うち女性)	13 (4)		1 (1)	1 (1)																															15 (5)		
	特別研究学生 (うち女性)		1 (1)		2 (1)											1 (1)			2 (1)					1 (1)					6 (1)	1 (1)		5 (1)			1 (1)		20 (3)	
	計 (うち女性)	74 (21)	38 (23)	27 (11)	35 (14)	24 (7)	20 (8)	5 (1)	8 (3)	7 (3)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (1)	1 (1)	1 (1)	6 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	285 (100)	

国費外国人留学生 117名 (情報13人 バイオ4人 物質4人 先端96人)
私費外国人留学生 168名 (情報9人 バイオ9人 物質9人 先端141人)

※赤字は女性を内数で示す。(2020年1月1日現在)

資料その他

学生数

研究科名	募集人員		現 員							合計
	博士 前期 (修士) 課程	博士 後期 (博士) 課程	博士前期（修士）課程			博士後期（博士）課程				
			1 年	2 年	計	1 年	2 年	3 年	計	
先端科学技術研究科	350	107	352(81)	359(89)	711(170)	117(32)	94(21)	0(0)	211(53)	922(223)
情 報 科 学 研 究 科	0	0	0(0)	7(1)	7(1)	0(0)	0(0)	49(8)	49(8)	56(9)
バイオサイエンス 研 究 科	0	0	0(0)	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	27(12)	27(12)	28(12)
物質創成科学研究科	0	0	0(0)	2(1)	2(1)	0(0)	0(0)	25(6)	25(6)	27(7)
合 計	350	107	352(81)	369(91)	721(172)	117(32)	94(21)	101(26)	312(79)	1033(251)

(2020年1月1日現在)

※赤字は女性を内数で示す。

※募集人員・現員には、秋学期入学者を含む。

学位授与状況

研究科名		博士前期課程			博士後期課程		
		修士 (工学)	修士 (理学)	修士 (バイオサイエンス)	博士 (工学)	博士 (理学)	博士 (バイオサイエンス)
先端科学技術研究科	2018年度	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	0(0)
	累計 (2018)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	0(0)
情報科学研究科	2016年度	131(3)	1(0)	—	32(9)<1>	4(1)<1>	—
	2017年度	139(2)	2(0)	—	36(7)	8(2)	—
	2018年度	136(2)	7(0)	—	15(2)<1>	2(0)	—
	累計 (1993~2018)	3319(158)	133(9)	—	630(186)<17>	67(14)<1>	—
バイオサイエンス 研 究 科	2016年度	—	—	121(1)	—	—	28(0)<3>
	2017年度	—	—	97(0)	—	—	29(0)<5>
	2018年度	—	—	136(0)	—	—	18(0)<2>
	累計 (1995~2018)	—	—	2644(4)	—	—	498(14)<44>
物質創成科学研究科	2016年度	82(0)	19(0)	—	21(5)	7(0)	—
	2017年度	76(1)	22(0)	—	17(6)	13(2)	—
	2018年度	71(0)	28(0)	—	13(0)	5(0)	—
	累計 (1999~2018)	1513(8)	370(4)	—	235(56)	128(31)	—

(2019年3月31日現在)

※()は、短期修了者数を内数で示す。< >は、本学の学位規程第3条第3項による学位授与者数を外数で示す。

学生募集イベント

詳細は本学ホームページ (<https://www.naist.jp/admission/event/>) をご覧ください。



受験生のためのオープンキャンパス

本学では毎年、受験生を対象に学内施設を公開するオープンキャンパスを開催しています。研究室訪問や研究機器のデモンストレーションなどを通して、本学の最先端の教育・研究内容を知ることができます。(2020年度は2020年5月と2021年2月に開催予定)



5月のオープンキャンパスでは、博士前期課程第1回入試の出願を控えた受験生を対象に入試説明会を開催します。

学生募集説明会

本学では毎年、全国各地で受験生を対象に学生募集説明会を開催しています。事前申込は不要で、教員から研究内容、学生生活、入試のことなどについて説明いたします。

【2020年4月・5月説明会】

東京、滋賀、京都、大阪、徳島、岡山、福岡で開催予定。

【2020年8月説明会】

東京、京都、大阪で開催予定。



※上記の他、各領域においてイベントを開催しています。詳細は各領域のホームページをご覧ください。
<https://www.naist.jp/admission/event/other.html>



入学者選抜試験 (2021年度入学)

大学や高専、企業から、研究への高い志を持つ学生を募集中

入試実施方法

情報科学区分

試験は、面接により下記のとおり1人30分程度日本語又は英語(入学願書にて受験言語を選択)により行います。

①試験当日に提示する資料(数学(代数、解析等))に関する口頭試問。

【数学出題範囲】

代数：下記の Chapter 1 から Chapter 7 まで。

Gilbert Strang, Introduction to Linear Algebra, Fourth Edition, Wellesley-Cambridge Press

日本語訳：G. ストラング, 線形代数イントロダクション, 原書第4版, 近代科学社

(なお、英語原書のFifth Editionでは、Chapter 1からChapter 8まで。)

解析：下記的全範囲。

Serge Lang, A First Course in Calculus, Springer

日本語訳：S. ラング, 解析入門, 岩波書店

②提出された小論文及び出身専攻分野を考慮した情報科学関連の質問。提出された小論文に関して、3分以内でプレゼンテーションをしていただきますので、事前に準備しておいてください。ただし、機器は用いず、口頭のみとします。

バイオサイエンス区分

試験は、面接により下記のとおり1人20分程度日本語又は英語(入学願書にて受験言語を選択)により行います。

①提出された小論文等に基づく専門知識に関する口頭試問。

②バイオサイエンス関連の基礎知識に関する口頭試問。

生物系学部で一般に使われている教科書や参考書の内容をもとに、細胞生物学、分子生物学、生化学に関連した問題を出題します。面接の直前に別室で問題を解き、面接の冒頭に口頭で解答します。

物質科学区分

試験は、面接により下記のとおり1人20分程度日本語又は英語(入学願書にて受験言語を選択)により行います。

①提出された小論文に基づき、5分間口述発表を行います。

②小論文及び発表に基づき、出身専攻分野を考慮した物質科学関連の口頭試問を15分程度行います。

資料の持込みは不可。ホワイトボードのみ使用できます。

入試日程

博士前期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
先端科学技術研究科	高専推薦選抜	2020.4.13(月)～ 2020.4.17(金)	2020.6.8(月)～ 2020.6.10(水)	2020.7.17(金)	2021.2下旬 (秋学期入学者は2020.9下旬)
	2021年春学期第1回 (2020年秋学期第2回)	2020.6.8(月)～ 2020.6.10(水)	[本学] 2020.7.8(水)～ 2020.7.11(土) [東京] 2020.7.6(月)	2020.7.17(金)	
	2021年春学期第2回	2020.9.14(月)～ 2020.9.16(水)	2020.10.13(火)～ 2020.10.15(木)	2020.10.20(火)	
	2021年春学期第3回 (2021年秋学期第1回)	2021.2.8(月)～ 2021.2.10(水)	2021.3.10(水)	2021.3.15(月)	

※飛び入学による受験者については、上記合格発表日に仮合格として発表し、後日、所定の手続きを経た上、あらためて合格者として発表します。詳しくは学生募集要項を確認してください。

※高専推薦選抜については、出願期間を適性審査書類提出期間、選抜期日を出願期間に読みかえてください。

博士後期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
先端科学技術研究科	2021年春学期第1回 (2020年秋学期第2回)	2020.7.27(月)～ 2020.7.29(水)	2020.8.24(月)～ 2020.8.27(木)	2020.9.1(火)	2021.2 下旬 (秋学期入学者は2020.9 下旬)
	2021年春学期第2回 (2021年秋学期第1回)	2021.1.18(月)～ 2021.1.20(水)	2021.2.15(月)～ 2021.2.16(火)	2021.2.19(金)	2021.3 下旬 (秋学期入学者は2021.9 下旬)

- 試験は主に面接により行います。
- 博士前期課程は1年間に3回入試を行います。
- 秋学期入学の入試も実施します。
- 博士前期課程春学期1回・秋学期第2回の入学者選抜試験は、東京会場でも受験できます。

詳細は本学ホームページの『入試情報』をご覧ください。

<https://www.naist.jp/admission/exam/>

※募集要項や願書をダウンロードしていただけます。『よくある質問 (FAQ)』等の情報もご活用ください。



入学状況

課程	試験区分※1	年度	入学定員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学者のうち		
								社会人	他分野※2	飛び入学
博士前期課程	情報科学区分	2017年度	135	361	338	191	153	10	75	1
		2018年度	—	374	353	166	138	4	70	0
		2019年度	—	398	378	192	150	11	68	1
	バイオサイエンス区分	2017年度	125	245	235	190	136	4	19	0
		2018年度	—	206	200	164	131	1	15	0
		2019年度	—	195	183	148	109	4	17	0
	物質創成科学区分	2017年度	90	255	243	158	99	3	20	0
		2018年度	—	255	244	140	95	0	19	0
		2019年度	—	242	231	146	95	2	27	1
博士後期課程	情報科学区分	2017年度	40	45	44	44	43	5	6	—
		2018年度	—	49	48	48	44	9	10	—
		2019年度	—	59	58	55	50	6	5	—
	バイオサイエンス区分	2017年度	37	25	25	23	22	0	0	—
		2018年度	—	28	27	27	27	3	1	—
		2019年度	—	31	31	31	28	4	0	—
	物質創成科学区分	2017年度	30	30	30	29	26	7	5	—
		2018年度	—	31	31	31	29	6	2	—
		2019年度	—	42	41	41	40	9	5	—

秋学期入学者を含みます。 ※1：2017年度以前は「区分」を「研究科」に読み替えてください。
※2：文系出身者等を指しています。

2019年度博士前期課程の試験回別入試結果

	情報科学区分				バイオサイエンス区分				物質創成科学区分			
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【留学生特別推薦選抜】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【留学生特別推薦選抜】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【留学生特別推薦選抜】
出願者	231	88	28	1	125	50	16	1	158	62	16	1
受験者	225	81	22	1	120	47	12	1	153	58	14	1
合格者	131	27	7	1	100	34	10	1	93	42	6	1
入学者	98	22	7	1	65	32	10	1	52	34	6	1

秋学期入学者は含めていません。

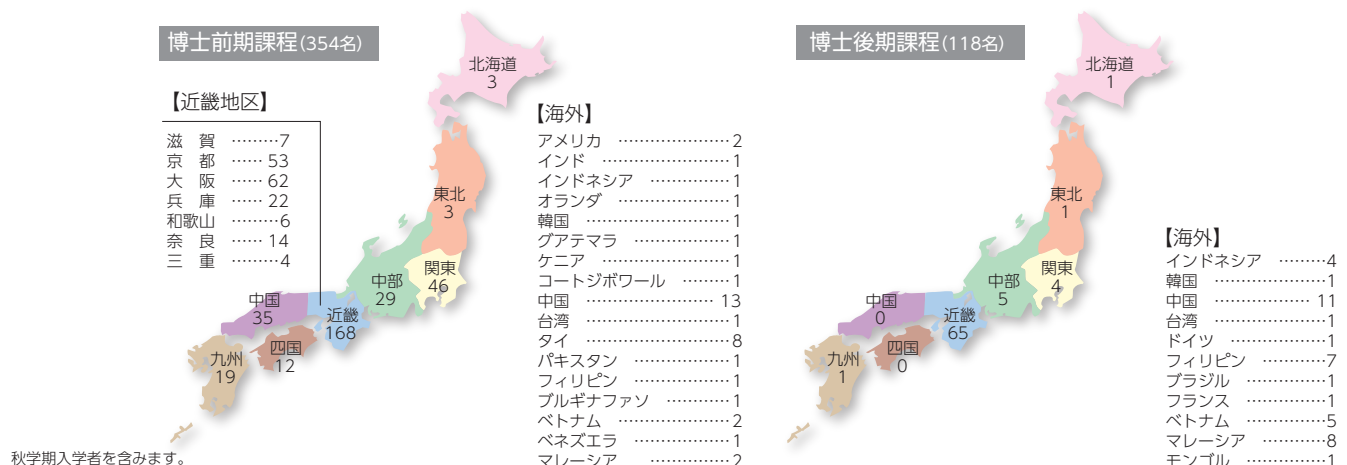
2020年度博士前期課程の試験回別入試結果

(2020年1月1日現在)

	情報科学区分			バイオサイエンス区分			物質創成科学区分		
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】
出願者	230	73	—	127	48	—	151	73	—
受験者	220	62	—	126	45	—	147	64	—
合格者	118	25	—	114	41	—	90	39	—

第3回入学者選抜試験は2020年1月1日現在において未実施。

2019年度入学者の出身大学・大学院等の所在地



秋学期入学者を含みます。

INFORMATION

● ホームページの入試Q&A コーナー等で、入試に役立つ情報が多数掲載されていますので、一度ご覧ください。

キャンパスマップ

関西文化学術研究都市にふさわしく、最先端の施設を完備



■スポーツ施設

グラウンド



テニスコート



バスケットボールコート



高山サイエスタウン駐車場 定期駐車券【本学学生】

1ヶ月	1,500円	3ヶ月	4,000円
6ヶ月	7,500円		

※申込みは、大学会館売店（コンビニエンスストア）、
本学支援財団事務所（高山サイエンスプラザ内）にて。
※定期駐車券は、駐車スペースの確保を約束するものではありません。

- ① 事務局
- ② 附属図書館（電子図書館）
- ③ 大学会館・コンビニエンスストア・保健管理センター
- ④ 学際融合領域研究棟2号館
- ⑤ ミレニアムホール
- ⑥ ゲストハウスせんたん
- ⑦ 情報科学棟
データ駆動型サイエンス創造センター
総合情報基盤センター
- ⑧ バイオサイエンス棟
遺伝子教育研究センター
- ⑨ 動物飼育実験施設
- ⑩ 植物温室
- ⑪ 物質創成科学棟
物質科学教育研究センター
- ⑫ バイオナノプロセス実験施設
- ⑬ 学際融合領域研究棟1号館
- ⑭ 学生宿舎
- ⑮ 職員宿舎
- ⑯ 事務局別館

ミレニアムホール⑤



入学式や学位記授与式、会議、講演などを行うことができる多目的のホールです。

福利厚生施設

■大学会館③

学生及び教職員の厚生施設である大学会館に、食堂（300席）、喫茶室（30席）、多目的スペース（イートインスペース、ラウンジ、ベビールーム）を設けています。宅配ロッカーも設置されており、24時間受け取りが可能です。

大学会館（食堂）



■コンビニエンスストア⑤

食品、飲料、文具、日常生活雑貨、切手類、大学グッズ等を販売するほか、公共料金支払い、宅配便（ヤマト運輸）の発送・受取、クリーニングの取次ぎを行っています。

●営業時間
月～金曜日／8:00～21:00
土曜日・日曜日・祝日／9:00～17:00

コンビニエンスストア（デイリーヤマザキ）



■ゲストハウスせんたん⑥

本学を来訪する国内外からの研究者をはじめ、学生や教職員も利用することのできる福利厚生施設です。宿泊施設は手頃な料金で利用することができ、受験時の宿泊にも利用できます。施設内には宿泊者などが利用できる集会室やフィットネス室が設けられています。利用申し込みは、人事課福利厚生係（0743-72-5033）までお問い合わせください。

ゲストハウスせんたん



■保健管理センター③

学生及び教職員の身体的、精神的健康の保持・増進をはかることを目的としています。内科医師および、看護師が常駐しており、定期健康診断、応急処置、健康相談、カウンセリング等を行っています。また、センターには、診察室、談話室、休養室を設けています。

保健管理センター



リエゾンオフィス

本学では、東京・田町にリエゾンオフィスを開設し、首都圏との産官学連携を有機的に進めるために活用しています。さらに、地域との連携を深めるために、中小企業の街・東大阪市にもリエゾンオフィスを設置しています。



東京事務所



東大阪事務所

高山サイエンスプラザ

大学の隣接地に、本学の支援財団が運営する高山サイエンスプラザがあり、その施設内にもレストラン、研修室等が設けられています。

奈良先端科学技術大学院大学支援財団 (高山サイエンスプラザ内)

奈良先端科学技術大学院大学の優れた特性や機能が最大限に発揮されるよう、その教育研究活動を積極的に支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流などを促進することにより、先端科学技術分野の研究開発等を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、我が国の科学技術の発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。同財団の基本財産（20億円）の運用益により、教育研究活動、国際交流活動、学術研究成果の普及活動に対する支援事業等が行われています。



高山サイエンスプラザ

産官学連携

本学は、開学当初から社会に開かれた大学として、社会人教育の実施、共同研究・受託研究の受入れ、産官学連携プロジェクトの構築等、産官学連携を積極的に推進しています。

こうした取り組みの成果として、本学の外部資金の獲得は年間約27億円（過去5年平均）となり、教員1人当たりでは約1,362万円、またライセンス収入においても年間約1,491万円（過去5年平均）となり、教員1人当たりでは約7.5万円と全国の大学でも高い水準を維持しています。

民間企業等と本学教員の共同研究も盛んに実施されており、学生もこうした研究に携わることで、民間企業や市場が抱える問題意識への理解も深まり、幅広い視野を身につけることが可能です。

また、文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業（2017年度～）」（「グローバルアントレプレナー育成促進事業（2014～2016年度）」）の採択機関として、「製品やサービス全体の設計と実現」や「国際的な視野での起業・事業創出」を先導できる優秀なアントレプレナー人材を育成するため、実践的な企業家教育プログラムを提供しています。

2004年に設置された、産官学連携推進本部（現産官学連携推進部門）には、知的財産管理等に精通した産官学連携推進部門のスタッフが在籍しており、研究によって生まれた発明について、知的財産の管理や活用等についてのサポートを行っています。



本学、立命館大学、パナソニック（株）の合同チームが「ワールド・ロボット・サミット（WRS）2018」において「フューチャーコンビニエンスストアチャレンジ競技 接客タスク」1位を獲得。本学学生やスタッフがチームの一員として出場しました。

また、「ワールド・ロボット・サミット（WRS）2020」の前哨戦として開催されたフューチャーコンビニエンスストアチャレンジトライアル競技会（FCSC2019）においても、同合同チームが「コンビニ部門 陳列・廃棄タスク」で1位を獲得しました。

同窓会

国内外の大学、研究機関、企業等で活躍している本学の修了生が同窓会を組織しており、親睦を深める様々な支援事業を通して、在学生、修了生を支援しています。

◎支援事業・正会員特典

- ・同窓会ホームページやメーリングリストにて各種案内や告知の発信・受信
- ・在学生・修了生の交流イベント
- ・修了生による講演会
- ・在学生向けの就職支援事業（同窓会正会員は優遇される場合があります）
- ・各種表彰
- ・同窓会集会に対する開催支援金の受給
- ・同窓会システムで、修了生（企業に就職したOB・OG等）を検索

◎正会員の永年会費

¥20,000

※修了生になられた後も、追加費用は一生必要ありません。



キャンパス周辺エリアMAP

① 高山竹林園



② 高山八幡宮



③ 学研北生駒駅



④ ペーカーリーレストラン サンマルク



⑤ スーパーヤオヒコ北大和店



⑥ 素盞鳴神社



⑦ 学研奈良登美ヶ丘駅



⑧ イオン奈良登美ヶ丘



⑨ ライフ学園前





18 高の原中央病院



17 高の原駅



16 イオン高の原



15 ゆららの湯



14 TSUTAYA



10 リコラス (クリニックモール)



11 松伯美術館



12 アピタタウンけいはんな (ショッピングモール)



13 国立国会図書館関西館

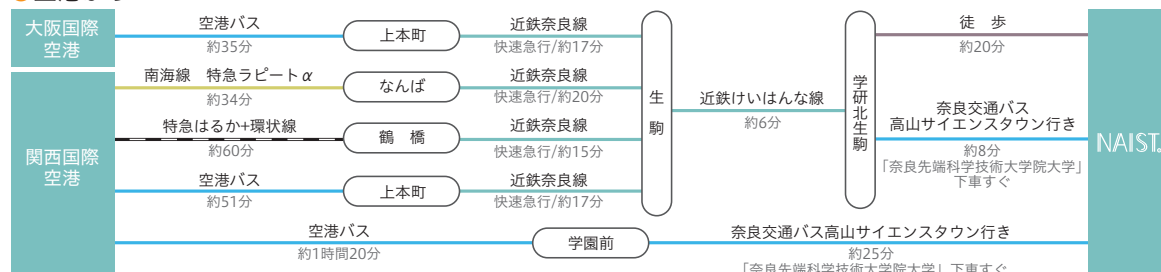


アクセス

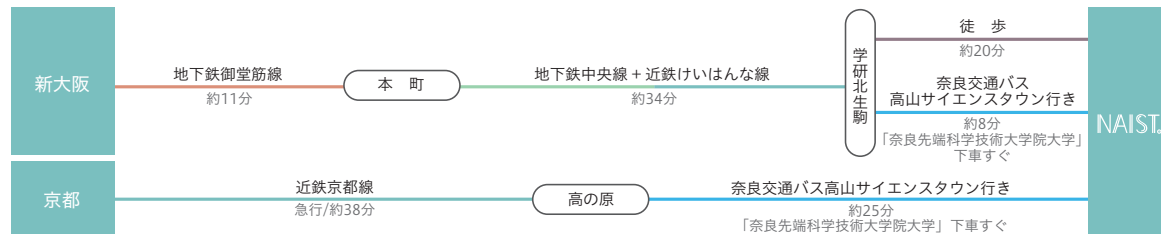
詳細は本学ホームページ (<https://www.naist.jp>) をご覧ください。



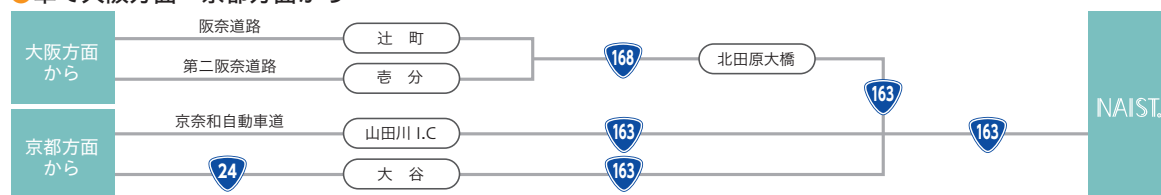
● 空港から



● 電車で新大阪・京都から



● 車で大阪方面・京都方面から





国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916番地の5 奈良先端科学技術大学院大学 教育支援課 入試係
電話／0743(72)5083・5084 FAX／0743(72)5014
メールアドレス／exam@ad.naist.jp ホームページ／<https://www.naist.jp/>



website

<https://www.naist.jp/>



twitter

https://twitter.com/NAIST_MAIN

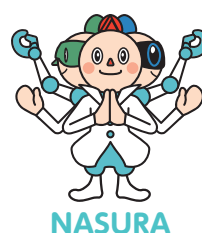


facebook

<https://www.facebook.com/naist.jp>



国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY



詳しくはWEBで
<https://www.naist.jp/>

奈良先端大



UD FONT
by MORISAWA

